

---

# 平成28年度 事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)



日本医科大学



日本獣医生命科学大学

学校法人 日本医科大学

---

# 目次

## I 学校法人の概要

1	学是と教育理念	1
2	沿革	2 ~ 4
3	法人が設置する教育研究機関、付置施設	5
4	所在地一覧	6 ~ 12
5	法人の組織機構	13 ~ 16
6	役員等一覧	17
7	教職員数一覧	18
8	学生数	19
9	入試状況、国家試験、学位授与	20 ~ 22
10	卒業生の進路	23
11	国際交流活動	24 ~ 25
12	管理運営等	26 ~ 30

## II 事業の概要

1	日本医科大学	31 ~ 33
2	日本獣医生命科学大学	34 ~ 38
3	看護専門学校	39 ~ 40
4	附属病院	41 ~ 44
5	武蔵小杉病院	45 ~ 47
6	多摩永山病院	48 ~ 50
7	千葉北総病院	51 ~ 52
8	健診医療センター	53
9	呼吸ケアクリニック	54
10	成田国際空港クリニック	55
11	腎クリニック	56
12	ワクチン療法研究施設	57
13	先端医学研究所	58
14	国際交流センター	59
15	知的財産推進センター	60
16	ICT推進センター	61 ~ 62
17	研究統括センター	63

## III 財務の概要

1	資金収支計算書	64
2	事業活動収支計算書	65 ~ 66
3	貸借対照表	67
4	財産目録	68
5	財務状況の推移	69 ~ 71

# I 学校法人の概要

## 1. 学是と教育理念

### (1) 日本医科大学

建学の精神 濟生救民

学是 克己殉公

教育理念 愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

日本医科大学は、1876年に長谷川泰により創設された濟生学舎を前身とし、創立140年を超えるわが国最古の私立医科大学である。本学の源流である濟生学舎は、その建学の精神を「濟生救民」（貧しくて、そのうえ病気で苦しんでいる人々を救うのが、医師の最も大切な道である）とし、その精神は大正7年に学是「克己殉公」（我身を捨てて、広く人々のために尽くす）として掲げられた。その建学の精神は、時代の変遷を経て今なお日本医科大学の学是として、明日の医療を担う学生たちに脈々と受け継がれている。また、教育理念は、建学の精神と学是をさらに明確に表現した「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」である。

### (2) 日本獣医生命科学大学

学是 敬讓相和

到達目標 愛と科学の聖業を培う

教育理念 愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成

日本獣医生命科学大学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」であり、学是は「敬讓相和」である。その意味は、謙讓と協調、慈愛と人倫を育む科学の創生を説いた箴言である。本学の目的は、新世紀における生命科学新時代・環境科学新時代・食品科学新時代の開拓者として、総合的な《生命科学の知と技》を練磨すると共に、《人間愛・動物愛》の豊かで清冽な人材の育成にある。

### (3) 日本医科大学看護専門学校

教育理念 克己殉公

私心を捨て社会に貢献する。

己に打ち克ち、公のために生きる。

日本医科大学の建学の精神を基盤に、自律性、主体性、創造性に富む豊かな人間性を培う。共同存在を基盤とした関係を築きながら、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる看護師を育成する。

## 2. 沿革

### 【略年譜】

明治9年	(1876)	済生学舎を設立（実質的な日本医科大学の前身）
明治14年	(1881)	私立獣医学校を設立（日本獣医生命科学大学の前身）
明治22年	(1887)	私立獣医学校を閉校
明治25年	(1892)	私立東京獣医学校として再興（旧私立獣医学校）
明治35年	(1902)	私立東京獣医学校を閉校
明治36年	(1903)	済生学舎を廃止
明治37年	(1904)	私立日本医学校を設立
		私立日本医学校を神田区淡路町へ移転
明治43年	(1910)	私立日本医学校が私立東京医学校を買収
		日本医科大学付属駒込医院を開院（現在の日本医科大学付属病院）
明治44年	(1911)	私立日本獣医学校を開校（旧私立獣医学校及び旧私立東京獣医学校の系統を継ぐ）
		根津真泉病院の寄贈を受け付属医院とする
明治45年	(1912)	私立日本医学校を本郷区本駒込千駄木町へ移転
		私立日本医学専門学校の設立が認可され、私立日本医学校を私立日本医学専門学校に改称
		日本医学専門学校付属本郷医院を開院
大正8年	(1919)	私立日本医学専門学校を日本医学専門学校に改称
大正9年	(1920)	日本医学専門学校予科を設置
大正10年	(1921)	日本医学専門学校付属医院看護婦講習科を開設
大正11年	(1922)	日本医学専門学校付属医院看護婦講習科が看護婦規則により講習所として指定される。
大正13年	(1924)	日本医学専門学校付属飯田町医院開院
大正15年	(1926)	財団法人日本医学専門学校を財団法人日本医科大学に改称
		大学令により日本医科大学を設置、予科を併設
		日本医科大学付属飯田町医院を日本医科大学付属第一医院に改称
		日本医科大学付属本郷医院を日本医科大学付属第二医院に改称
		日本医学専門学校を日本医科大学専門部に改称
昭和6年	(1931)	日本医科大学専門部を廃止
昭和7年	(1932)	日本医科大学予科を神奈川県橘樹郡中原町に移転
昭和10年	(1935)	日本医科大学付属第一医院に看護婦講習所を設置
昭和12年	(1937)	日本医科大学付属丸子病院開院
昭和13年	(1938)	財団法人日本高等獣医学校の設立が許可され、設置
昭和14年	(1939)	私立日本獣医学校を廃校
		日本医科大学付属第二医院に看護婦講習所設置
昭和15年	(1940)	日本医科大学付属丸子病院を日本医科大学付属第三医院に改称
昭和19年	(1944)	専門学校令により日本医科大学付属医学専門部を設置

昭和20年	(1945)	日本高等獣医学校を日本獣医畜産専門学校に改称
昭和21年	(1946)	日本医科大学予科校舎を千葉県市川市国府台へ移転
昭和22年	(1947)	日本獣医畜産専門学校に獣医科及び畜産科を設置
昭和24年	(1949)	新制大学設置の許可を得、日本獣医畜産専門学校を日本獣医畜産大学に改称、獣医学科及び畜産学科を設置
昭和25年	(1950)	日本医科大学付属医学専門部を廃止
昭和26年	(1951)	財団法人日本医科大学を学校法人日本医科大学に改組
		財団法人日本獣医畜産大学を学校法人日本獣医畜産大学に改組
		学制改正により日本医科大学予科を廃止
昭和27年	(1952)	学校法人日本医科大学と学校法人日本獣医畜産大学が合併し、学校法人日本医科大学となる。
昭和28年	(1953)	日本獣医畜産大学に教職課程を設置
		日本医科大学付属准看護学院を設置
昭和29年	(1954)	日本医科大学付属第二病院を日本医科大学付属病院に改称
		日本医科大学付属第三病院を日本医科大学付属第二病院に改称
昭和30年	(1955)	日本医科大学医学進学課程を設置
昭和35年	(1960)	日本医科大学大学院医学研究科（博士課程）を設置
昭和37年	(1962)	日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科（博士課程・修士課程）を設置
昭和38年	(1963)	日本医科大学付属病院を日本医科大学付属病院に改称
		日本医科大学付属第一病院を日本医科大学付属第一病院に改称
		日本医科大学付属第二病院を日本医科大学付属第二病院に改称
昭和39年	(1964)	日本医科大学付属高等看護学院を設置
昭和40年	(1965)	日本医科大学付属高等看護学院に別科を併設
昭和41年	(1966)	日本衛生技術専門学院を設置
昭和42年	(1967)	日本獣医畜産大学に畜産食品工学科を設置
昭和43年	(1968)	社団法人老人病研究会付置老人病研究所を本法人に移管し、日本医科大学老人病研究所を設置
昭和45年	(1970)	日本医科大学医学進学課程、専門課程を一本化し、6年制一貫教育を実施
昭和47年	(1972)	日本医科大学付属第二高等看護学院を設置
		日本医科大学ワクチン療法研究施設を設置
昭和48年	(1973)	日本医科大学付属准看護学院を廃止
昭和50年	(1975)	日本医科大学専門課程を廃止
		日本獣医畜産大学付属小野田牧場を開設
昭和51年	(1976)	日本医科大学付属第二高等看護学院を専修学校として設置、日本医科大学丸子看護専門学校に改称
		日本医科大学付属高等看護学院を上野桜木校地へ移転
昭和52年	(1977)	日本医科大学付属多摩永山病院を開院
昭和53年	(1978)	日本医科大学付属高等看護学院を専修学校として設置、日本医科大学看護専門学校（第一看護科・第二看護科）に改称
		日本衛生技術専門学院を日本医学技術専門学校に改称
昭和57年	(1982)	日本獣医畜産大学獣医学科修士積み上げ方式による6年制を開始
昭和59年	(1984)	日本獣医畜産大学獣医学科、学校教育法一部改正により6年制一貫教育に移行

昭和61年	(1986)	学校法人日本医科大学国際交流センターを設置
昭和62年	(1987)	日本医科大学看護専門学校第二看護科廃止、同第一看護科を看護科に改称
平成4年	(1992)	日本医科大学新東京国際空港クリニックを開院
		日本獣医畜産大学富士アニマルファームを開設
平成5年	(1993)	日本医科大学千葉看護専門学校を開校
		日本獣医畜産大学富士セミナーハウスを開設
平成6年	(1994)	日本医科大学付属千葉北総病院を開院
平成7年	(1995)	日本獣医畜産大学小野田牧場を閉鎖
平成9年	(1997)	日本医科大学腎クリニックを開院
		日本医科大学付属第一病院を閉院
平成11年	(1999)	日本医科大学看護専門学校を廃止
平成12年	(2000)	日本医科大学丸子看護専門学校を廃止
		日本獣医畜産大学獣医畜産学部の畜産食品工学科を食品科学科に改称
平成13年	(2001)	日本獣医畜産大学獣医畜産学部の畜産学科を動物科学科に改称
		学校法人日本医科大学知的財産・ベンチャー育成 (TLO) センター設置
平成15年	(2003)	日本獣医畜産大学獣医畜産学部を獣医学部に改称し、応用生命科学部を設置 (獣医学部獣医学科、応用生命科学部動物科学科、応用生命科学部食品科学科に改組)
		日本獣医畜産大学動物保健学別科を設置
		日本獣医畜産大学獣医学部付属動物医療センターを開院
平成16年	(2004)	日本医科大学呼吸ケアクリニックを開院
		日本医科大学新東京国際空港クリニックを日本医科大学成田国際空港クリニックに改称
平成17年	(2005)	日本医学技術専門学校を廃止
		日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科を日本獣医畜産大学大学院獣医生命科学研究科に改称
		日本獣医畜産大学獣医学部に獣医保健看護学科を設置
平成18年	(2006)	日本医科大学千葉看護専門学校を日本医科大学看護専門学校に改称
		日本医科大学健診医療センター開院
		日本獣医畜産大学動物保健学別科を廃止
平成19年	(2007)	日本獣医畜産大学を日本獣医生命科学大学に改称
		日本医科大学付属第二病院を日本医科大学武蔵小杉病院に改称
		日本医科大学付属多摩永山病院を日本医科大学多摩永山病院に改称
平成20年	(2008)	日本医科大学付属千葉北総病院を日本医科大学千葉北総病院に改称
		日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科応用科学専攻に博士前期課程 (2年制) 及び博士後期課程 (3年制) を設置
平成21年	(2009)	日本獣医生命科学大学大学院生命科学研究科に獣医保健看護学専攻修士課程を新たに設置
平成23年	(2011)	日本獣医生命科学大学大学院生命科学研究科に獣医保健看護学専攻博士前期課程 (2年制) 及び博士後期課程 (3年制) を設置
平成26年	(2014)	日本医科大学新丸子校舎を閉舎し、武蔵境校舎への移設により日本医科大学と日本獣医生命科学大学の合同教育施設利用開始
		学校法人日本医科大学ICT推進センターを設置
平成28年	(2016)	学校法人日本医科大学研究統括センターを設置

### 3. 法人が設置する教育研究機関・付置施設

平成29年3月31日現在

#### (1) 日本医科大学 学長 弦間 昭彦

大学院医学研究科	医学研究科長	鈴木 秀典
医学部	医学部長	小澤 一史
付属病院	院長	汲田 伸一郎
腎クリニック	所長	橋本 和政
ワクチン療法研究施設	所長	江上 格
武蔵小杉病院	院長	田島 廣之
多摩永山病院	院長	吉田 寛
千葉北総病院	院長	清野 精彦
健診医療センター	センター長	福嶋 善光
呼吸ケアクリニック	所長	木田 厚瑞
成田国際空港クリニック	所長	赤沼 雅彦
図書館	館長	折茂 英生
先端医学研究所	所長	南 史朗

#### (2) 日本獣医生命科学大学 学長 阿久澤 良造

大学院獣医生命科学研究科	研究科長	新井 敏郎
獣医学部	獣医学部長	河上 栄一
応用生命科学部	応用生命科学部長	天尾 弘実
付属図書館	館長	高橋 公正
付属ワイルドライフ・ミュージアム	館長	梶ヶ谷 博
付属動物医療センター	院長	藤田 道郎
付属牧場(富士アニマルファーム)	牧場長	吉村 格
生命科学共同研究施設	施設長	袴田 陽二
分子腫瘍学研究施設	施設長	尼崎 肇

#### (3) 日本医科大学看護専門学校 校長 小泉 智恵子

#### (4) 付置施設

国際交流センター	センター長	新田 隆
知的財産推進センター	センター長	猪口 孝一
ICT推進センター	センター長	林 宏光
研究統括センター	センター長	弦間 昭彦

## 4. 所在地一覽

### (1) 日本医科大学

日本医科大学 医学部棟



〒113-8602 東京都文京区向丘2-20-10

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/college/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、  
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [地下鉄都営三田線]

日本医科大学 大学院棟



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

最寄駅: 根津 [東京メトロ千代田線] 東大前 [東京メトロ南北線]

日本医科大学 武蔵境校舎



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

☎ 0422 (34) 3394

最寄駅: 武蔵境 [JR中央線] [西武多摩川線]

日本医科大学 図書館



〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、  
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [都営三田線]

付属病院



〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/hosp/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、  
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [都営三田線]

武蔵小杉病院



〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-39

☎ 044 (733) 5181

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/kosugi-h/>

最寄駅: 武蔵小杉、新丸子 [東急東横線、目黒線] 武蔵小杉 [JR南武線、横須賀線]



## 多摩永山病院



〒206-8512 東京都多摩市永山1-7-1

☎ 042 (371) 2111

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/tama-h/>

最寄駅:小田急永山[小田急多摩線] 京王永山[京王相模原線]

## 千葉北総病院



〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715

☎ 0476 (99) 1111

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

最寄駅:印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

## 健診医療センター



〒113-0022 東京都文京区千駄木1-12-15

☎ 03 (5814) 6651

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/pet/>

最寄駅:千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

## 呼吸ケアクリニック



〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-15 JPR市ヶ谷ビル8F

☎ 03 (5276) 2325

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/rcc/>

最寄駅:市ヶ谷[JR中央・総武線][東京メトロ有楽町線、南北線][都営新宿線]

## 成田国際空港クリニック



〒282-0004 千葉県成田市古込字古込1-1

☎ 0476 (34) 6119

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/narita/>

最寄駅:空港第2ビル[JR線][成田スカイアクセス線][京成本線]

## 腎クリニック



〒113-1601 東京都文京区本駒込1-7-15アサカビル

☎ 03 (3822) 2131

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/jin/>

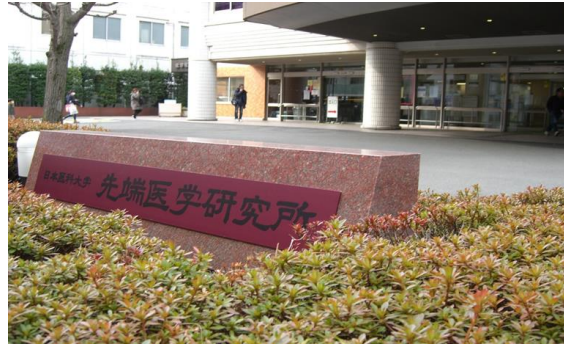
最寄駅:本駒込[東京メトロ南北線] 白山[都営地下鉄三田線]

## ワクチン療法研究施設



〒113-8706 東京都文京区千駄木1-1-5  
☎ 03 (3822) 2131 [大代表]  
ホームページアドレス <http://vaccine.nms.ac.jp/>  
最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、  
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [地下鉄都営三田線]

## 先端医学研究所



〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-39  
☎ 044 (733) 1821  
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/ig/>  
最寄駅: 武蔵小杉、新丸子 [東急東横線、目黒線]  
武蔵小杉 [JR南武線、横須賀線]

## (2) 日本獣医生命科学大学

### 日本獣医生命科学大学



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1  
☎ 0422 (31) 4151  
ホームページアドレス <http://www.nvlu.ac.jp/>  
最寄駅: 武蔵境 [JR中央線] [西武多摩川線]

### A・B棟



(同左)

### D棟



(同上)

### E棟



(同上)

## 第二校舎



〒180-0022 東京都武蔵野市境2-27-5  
☎ 0422 (51)6121

## 付属動物医療センター



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1  
☎ 0422 (31) 4151

## 富士アニマルファーム



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺799  
☎ 0555 (89) 3086

## 富士セミナーハウス



(同左)

## (3) 日本医科大学看護専門学校

### 看護専門学校



〒270-1613 千葉県印西市鎌苅1955  
☎ 0476 (99) 1331

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/nursing-s/>

最寄駅:印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

### 看護学生寮 ドミトリーMOMO



(同左)

## (4) 付置施設

国際交流センター 弥生1号館



〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-10 (弥生1号館内)

☎ 03 (5802) 1946

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/iec/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線]

知的財産推進センター



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16

☎ 03 (5814) 6637

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/tlo/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線]

ICT推進センター



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16

☎ 03 (5814) 6932

ホームページアドレス <http://www.nms.ac.jp/ict/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前 [東京メトロ南北線]

研究統括センター



〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-10 (弥生1号館内)

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線]

## (5) その他施設等

日医大マリンハウス



〒248-0021 神奈川県鎌倉市坂の下31-14

☎ 0467 (23) 1563

最寄駅: 極楽寺 [江ノ島電鉄線]

牧心セミナーハウス



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺8

☎ 0555 (89) 2126

法人本部



〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

☎03(3822)2131

最寄駅:千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

弥生2号館

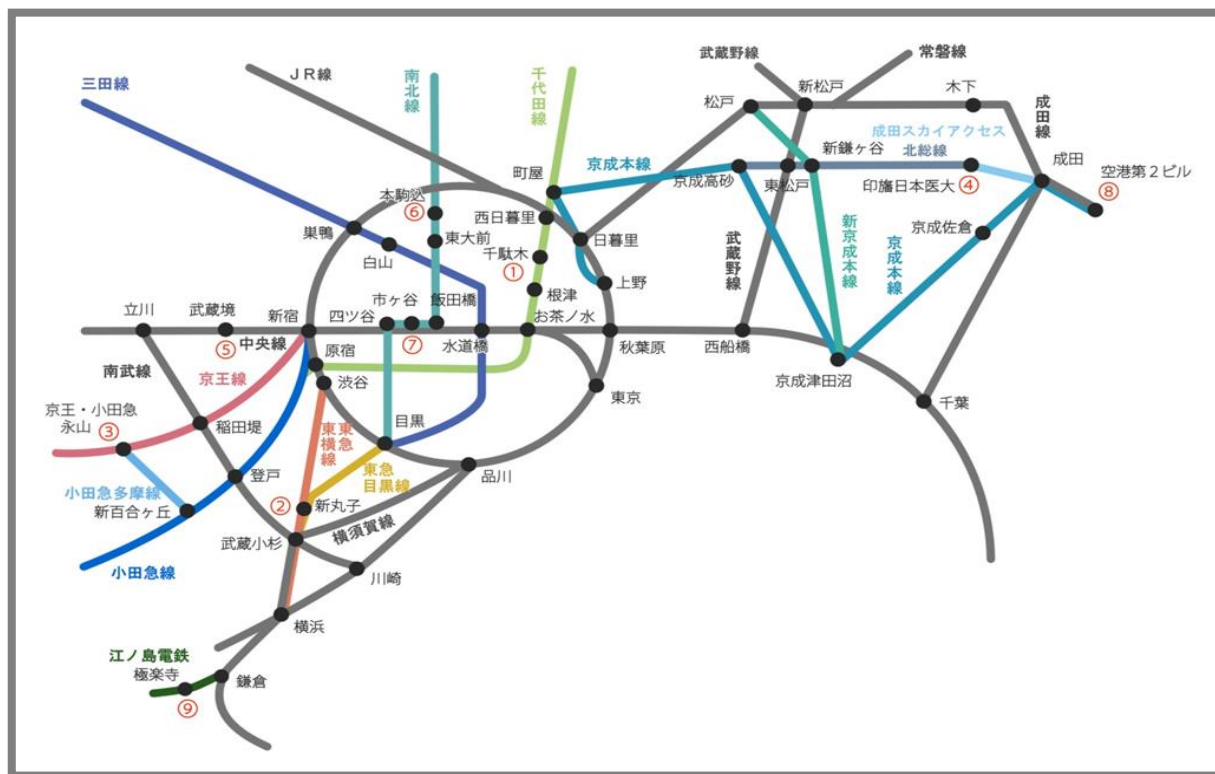


〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-14

☎03(3822)2131

最寄駅:千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前[東京メトロ南北線]

## (6) アクセスマップ

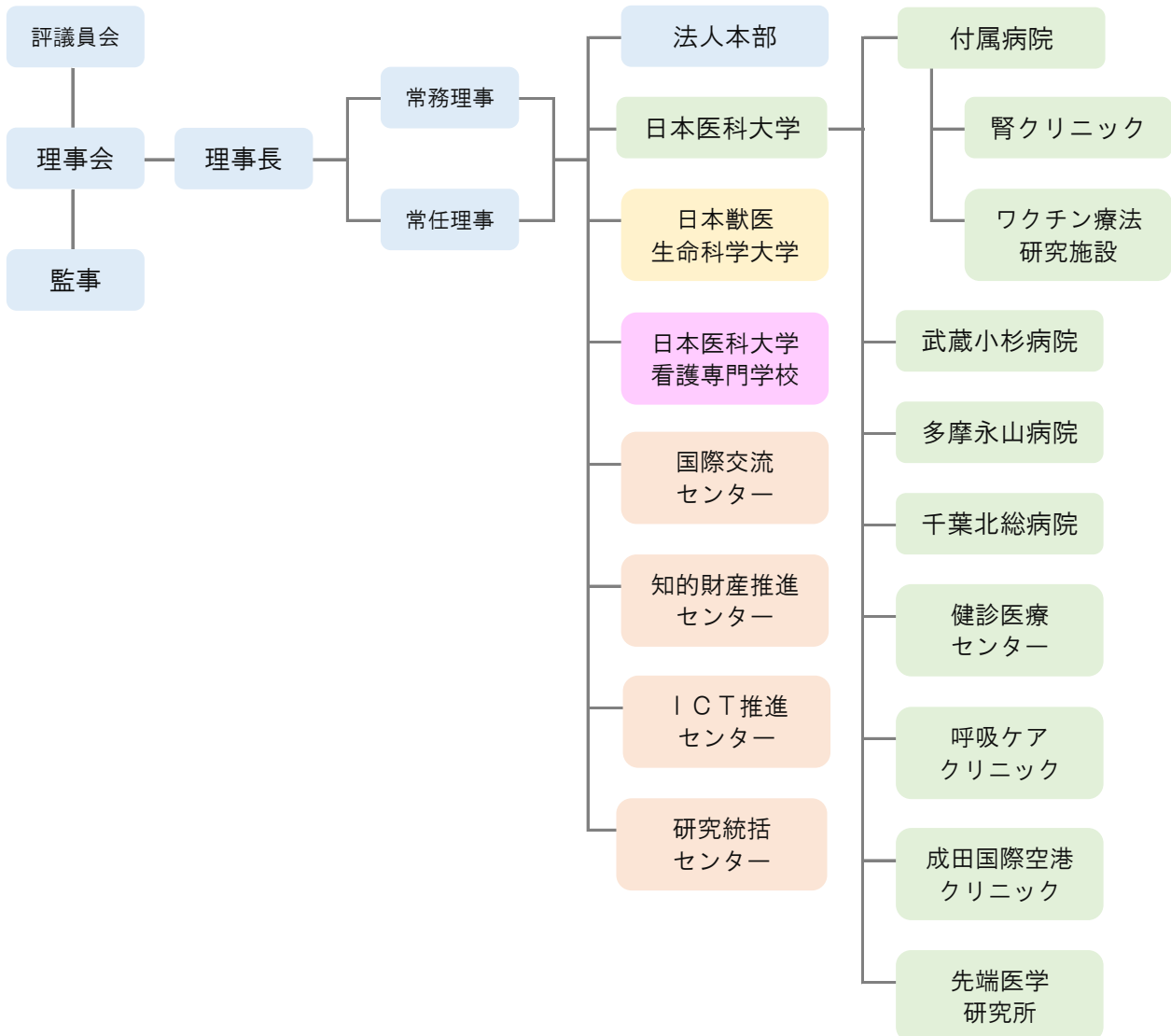


- ① 学校法人日本医科大学 日本医科大学(千駄木校舎) 附属病院  
国際交流センター 知的財産推進センター ICT推進センター  
健診医療センター ワクチン療法研究施設 研究統括センター
- ② 武蔵小杉病院 先端医学研究所 新丸子グラウンド
- ③ 多摩永山病院
- ④ 千葉北総病院 看護専門学校
- ⑤ 日本獣医生命科学大学 動物医療センター  
日本医科大学(武蔵境校舎)
- ⑥ 腎クリニック
- ⑦ 呼吸ケアクリニック
- ⑧ 成田国際空港クリニック
- ⑨ 日医大マリンハウス

## 5. 法人の組織機構

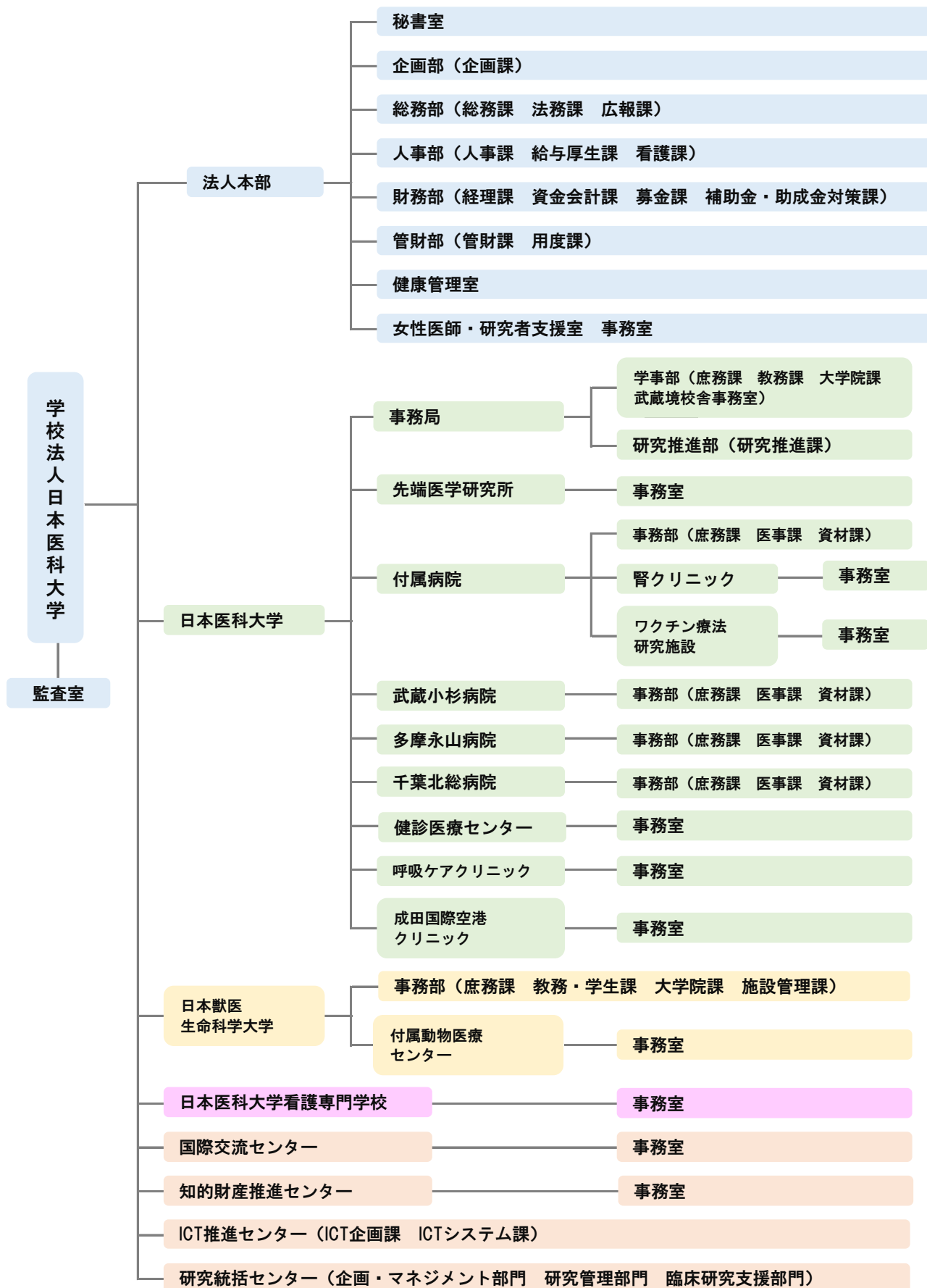
### (1) 法人組織

平成29年3月31日現在



## (2) 事務組織

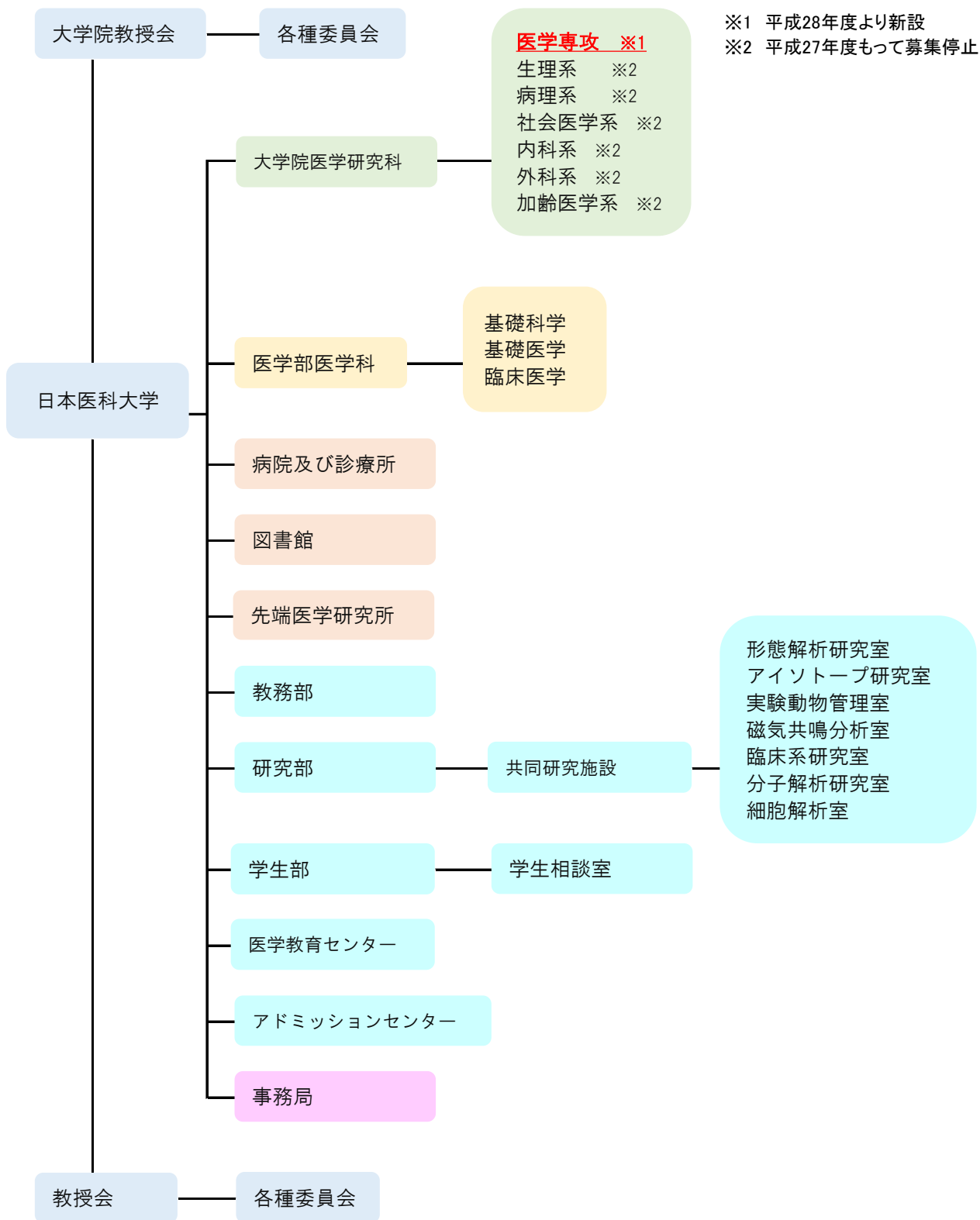
平成29年3月31日現在





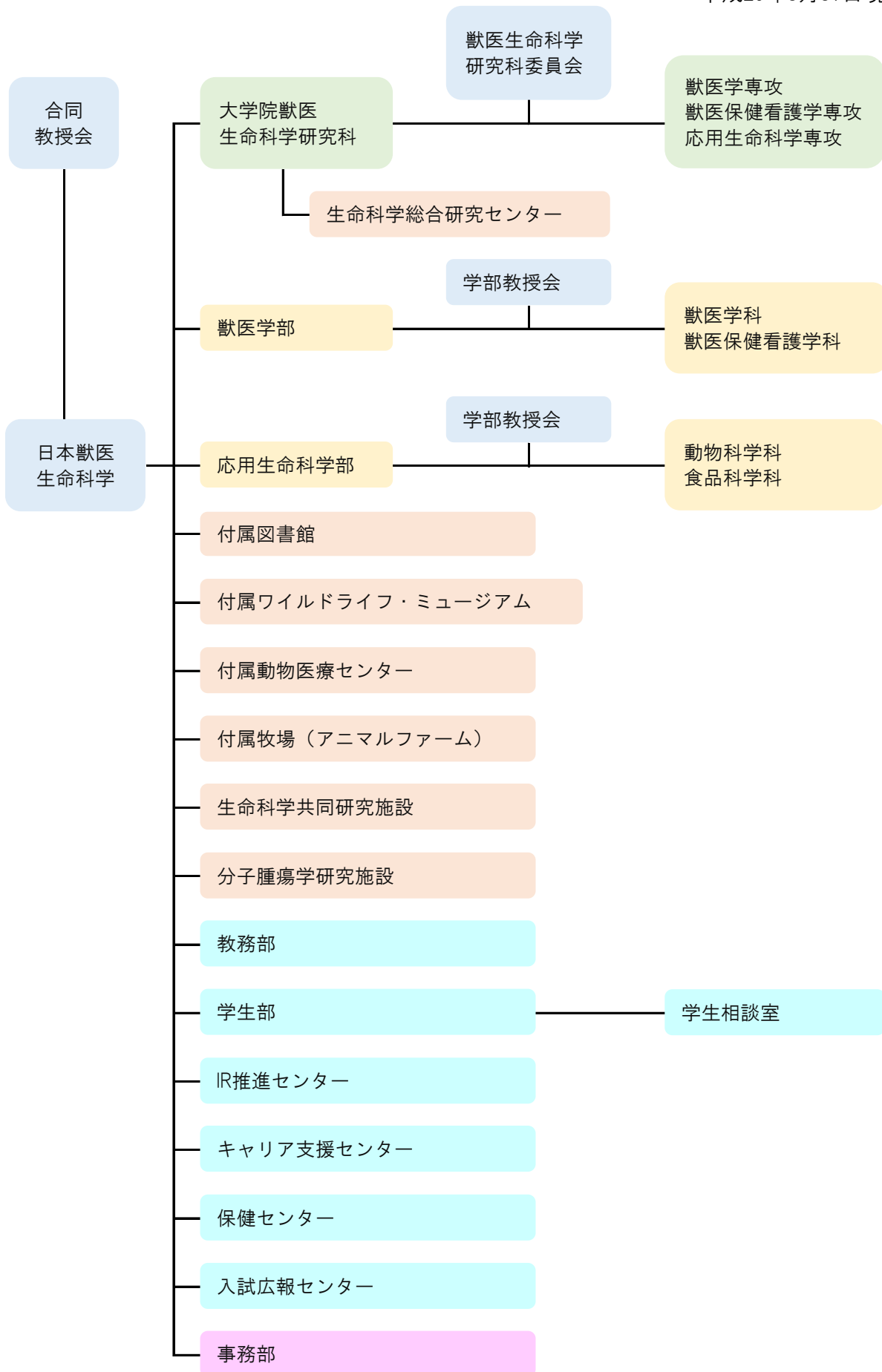
### (3) 日本医科大学

平成29年3月31日現在



(4) 日本獣医生命科学大学

平成29年3月31日現在



## 6. 役員等一覧

平成29年3月31日現在

### (1) 理事・監事

役職名	氏名	常勤・非常勤	選任区分
理事長	坂本 篤裕	常 勤	学識経験者
常務理事	山下 精彦		評議員
	弦間 昭彦		日本医科大学学長
常任理事	伊藤 雅治	非 常 勤	評議員
理 事	阿久澤 良造	常 勤	日本獣医生命科学大学学長
	汲田 伸一郎		評議員
	清水 一政		評議員
	赫 彰郎		評議員 (H29. 1. 10辞任※)
	黒川 顯		学識経験者
	鈴木 秀典		学識経験者
	清野 精彦		学識経験者
	福永 慶隆		学識経験者 (H28. 12. 31辞任※)
	吉田 寛		学識経験者
		鎌田 隆	非 常 勤
監 事	大喜多啓光	非 常 勤	
	柏原 一英		
	柴 由美子		

区分	定数	現員	
理事	14	14 (2)	( )内は学外理事数
監事	2~3	3 (3)	( )内は学外監事数

※ 寄附行為第8条第3項の定めにより、後任者が選任されるまではなおその職務を行う。

### (2) 評議員

評議員会議長 越野 立夫

区分	定数	現員	選任区分
1号評議員	2	2	二大学の学長
2号評議員	10	10	二大学の研究科長及び学部長、四病院長等
3号評議員	6	6	本法人の職員
4号評議員	10~12	11	本法人が設置する大学の卒業生
5号評議員	8~12	9	学識経験者（本法人の大学卒業生及び本法人の職員を除く）
計	36~42	38	

## 7. 教職員数一覧

### (1) 教員

平成28年5月1日現在

		教授	准教授	講師	助教	専任教員	計
日本医科大学	日本医科大学	20	26	30	39	0	115
	付属病院	42	46	53	244	0	385
	腎クリニック	0	0	0	2	0	2
	ワクチン療法研究施設	0	0	1	1	0	2
	武蔵小杉病院	10	8	16	100	0	134
	多摩永山病院	5	11	14	89	0	119
	千葉北総病院	10	23	13	135	0	181
	健診医療センター	0	0	1	2	0	3
	呼吸ケアクリニック	1	0	0	3	0	4
	成田国際空港クリニック	1	0	0	2	0	3
	先端医学研究所	4	2	3	8	0	17
	小計	93	116	131	625	0	965
日本獣医生命科学大学	獣医学部	29	22	20	18	4	93
	応用生命科学部	15	15	7	2	0	39
	小計	44	37	27	20	4	132
日本医科大学看護専門学校		—	—	—	—	16	16
合計		137	153	158	645	20	1,113

### (2) 職員

平成28年5月1日現在

		事務職	看護職	技術職	技能職	計
法人本部		69	0	0	4	73
日本医科大学	日本医科大学	61	0	40	3	104
	付属病院	159	1,172	308	35	1,674
	腎クリニック	1	8	4	0	13
	ワクチン療法研究施設	1	0	0	0	1
	武蔵小杉病院	62	553	118	8	741
	多摩永山病院	55	557	106	5	723
	千葉北総病院	95	687	153	4	939
	健診医療センター	3	7	7	0	17
	呼吸ケアクリニック	2	5	2	0	9
	成田国際空港クリニック	4	8	2	0	14
	先端医学病研究所	2	0	8	0	10
	小計	445	2,997	748	55	4,245
日本獣医生命科学大学	獣医学部	24	0	2	11	37
	応用生命科学部	15	1	0	3	19
	小計	39	1	2	14	56
日本医科大学看護専門学校		6	0	0	0	6
国際交流センター		2	0	0	1	3
知的財産推進センター		3	0	0	0	3
ICT推進センター		6	0	0	0	6
研究統括センター		1	0	0	0	1
合計		571	2,998	750	74	4,393

## 8. 学生数

平成28年5月1日現在

区 分		定員	現員	充足率	編入学定員	編入学者数		
日本医科大学	医学部	医学部1年	116	126	108.6%	-	-	
		医学部2年	114	125	109.6%	-	-	
		医学部3年	114	107	93.9%	-	-	
		医学部4年	114	104	91.2%	-	-	
		医学部5年	114	119	104.4%	-	-	
		医学部6年	114	117	102.6%	-	-	
		医学部合計	686	698	101.7%	-	-	
	大学院	大学院1年	70	25	35.7%	-	-	
		大学院2年	70	29	41.4%	-	-	
		大学院3年	70	31	44.3%	-	-	
		大学院4年	70	54	77.1%	-	-	
		大学院合計	280	139	49.6%	-	-	
	日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医学科1年	80	92	115.0%	-	-
			獣医学科2年	80	94	117.5%	-	-
獣医学科3年			80	110	137.5%	-	-	
獣医学科4年			80	90	112.5%	-	-	
獣医学科5年			80	93	116.3%	若干名	3	
獣医学科6年			80	90	112.5%	若干名	0	
小計			480	569	118.5%	若干名	3	
獣医保健看護学科1年			100	102	102.0%	若干名	0	
獣医保健看護学科2年			100	102	102.0%	若干名	0	
獣医保健看護学科3年			100	99	99.0%	若干名	0	
獣医保健看護学科4年			100	103	103.0%	若干名	0	
小計			400	406	101.5%	若干名	0	
獣医学部合計			880	975	110.8%	若干名	3	
応用生命科学部			動物科学科1年	100	103	103.0%	若干名	0
		動物科学科2年	100	97	97.0%	若干名	0	
		動物科学科3年	100	95	95.0%	若干名	0	
		動物科学科4年	100	97	97.0%	若干名	0	
		小計	400	392	98.0%	若干名	0	
		食品科学科1年	80	93	116.3%	若干名	0	
		食品科学科2年	80	89	111.3%	若干名	0	
		食品科学科3年	80	88	110.0%	若干名	0	
		食品科学科4年	80	87	108.8%	若干名	1	
		小計	320	357	111.6%	若干名	1	
		応用生命科学部合計	720	749	104.0%	若干名	1	
学部合計		1,600	1,724	107.8%	若干名	4		
大学院		獣医学専攻1年	8	10	125.0%	-	-	
		獣医学専攻2年	8	5	62.5%	-	-	
		獣医学専攻3年	8	3	37.5%	-	-	
		獣医学専攻4年	8	4	50.0%	-	-	
		小計	32	22	68.8%	-	-	
		獣医保健看護学前期1年	5	8	160.0%	-	-	
		獣医保健看護学前期2年	5	8	160.0%	-	-	
	獣医保健看護学後期1年	2	1	50.0%	-	-		
	獣医保健看護学後期2年	2	1	50.0%	-	-		
	獣医保健看護学後期3年	2	2	100.0%	-	-		
	小計	16	20	125.0%	-	-		
	応用生命科学前期1年	7	4	57.1%	-	-		
	応用生命科学前期2年	7	6	85.7%	-	-		
	応用生命科学後期1年	2	1	50.0%	-	-		
	応用生命科学後期2年	2	1	50.0%	-	-		
	応用生命科学後期3年	2	1	50.0%	-	-		
	小計	20	13	65.0%	-	-		
	大学院合計	68	55	80.9%	-	-		
日本医科大学看護専門学校	看護学科	看護学科1年	80	83	103.8%	-	-	
看護学科2年		80	80	100.0%	-	-		
看護学科3年		80	81	101.3%	-	-		
看護学科合計		240	244	101.7%	-	-		

## 9. 入試状況・国家試験・学位授与

### (1) 平成29年度入学者入試状況

(単位：人)

学校名	学部・学科		受験種	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
日本医科大学	医学部		一般入試	3,389	3,126	118	118
	大学院	医学研究科	一般入試	44	43	41	40
日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医学科	推薦	81	77	23	23
			特別選抜(社会人)	2	2	0	0
			特別選抜(帰国子女)	3	3	1	0
			特別選抜(後継者/地域)	8	8	3	3
			特別選抜(学士)	12	12	1	1
			センター試験(第一回)	579	557	39	8
			一般(第一回)	1,023	904	137	61
			一般(第二回)	413	361	3	3
		獣医保健看護学科	推薦 ※指定校推薦含む	66	65	28	28
			特別選抜(社会人)	0	0	0	0
			特別選抜(帰国子女)	0	0	0	0
			センター試験(第一回)	214	211	84	29
			一般(第一回)	315	308	125	64
			一般(第二回)	80	74	5	5
		編入学(学士)	0	0	0	0	
		編入学	1	1	0	0	
		小 計		2,797	2,583	449	225
	応用生命科学部	動物科学科	推薦 ※指定校推薦含む	36	35	30	29
			特別選抜(社会人)	0	0	0	0
			特別選抜(帰国子女)	0	0	0	0
			センター試験(第一回)	255	253	100	3
			一般(第一回)	328	317	162	49
			一般(第二回)	82	73	33	19
			編入学(学士)	0	0	0	0
			編入学				
食品科学科		推薦 ※指定校推薦含む	30	30	27	27	
		特別選抜(社会人)	0	0	0	0	
		特別選抜(帰国子女)	0	0	0	0	
		センター試験(第一回)	121	120	50	0	
		センター試験(第二回)	5	5	4	1	
		一般(第一回)	186	178	123	60	
		一般(第二回)	57	54	8	4	
		編入学(学士)	0	0	0	0	
編入学	1	1	0	0			
	小 計		1,101	1,066	537	192	
	学 部 合 計		3,898	3,649	986	417	

日本獣医 生命科学大学	大学院	獣医学専攻	一般（第一回）	2	2	2	2
			社会人（第一回）	1	1	1	1
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	2	2	2	2
			社会人（第二回）	2	2	2	2
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		獣医保健看護学前期	一般（第一回）	4	4	4	3
			社会人（第一回）	1	1	1	1
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	1	1	1	1
			社会人（第二回）	2	2	2	2
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		獣医保健看護学後期	一般（第一回）	0	0	0	0
			社会人（第一回）	0	0	0	0
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	1	1	1	1
			社会人（第二回）	1	1	1	1
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		応用生命科学前期	一般（第一回）	6	6	5	5
			社会人（第一回）	0	0	0	0
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	2	2	2	2
			社会人（第二回）	0	0	0	0
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		応用生命科学後期	一般（第一回）	0	0	0	0
社会人（第一回）	0		0	0	0		
外国人（第一回）	0		0	0	0		
一般（第二回）	0		0	0	0		
社会人（第二回）	0		0	0	0		
外国人（第二回）	0		0	0	0		
大学院合計			25	25	24	23	
日本医科大学 看護専門学校	看護学科	推薦入試	109	109	42	42	
		社会人入試	23	20	4	4	
		一般入試	122	108	42	40	
		合計	287	270	119	116	

(2) 平成29年(111回) 医師国家試験 [日本医科大学]

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
現役	116	99	85.3	91.8
既卒	4	0	0.0	54.3
合計	120	99	82.5	88.7

(3) 平成29年(68回) 獣医師国家試験 [日本獣医生命科学大学]

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
現役	80	74	92.5	87.5
既卒	22	9	40.9	38.0
合計	102	83	81.4	77.2

(4) 平成29年(106回) 看護師国家試験 [日本医科大学看護専門学校]

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
現役	79	77	97.5	94.3
既卒	5	2	40.0	35.6
合計	84	79	94.0	88.5

(5) 学位授与

学校名	学 部 ・ 学 科	学位授与数	卒業・修業者数
		(人)	(人)
日本医科大学	医 学 部	95	95
日本獣医 生命科学大学	獣医学部	獣医学科	90
		獣医保健看護学科	103
		小 計	193
	応用生命 科学部	動物科学科	97
		食品科学科	87
学 部 合 計	377	377	
日本医科大学 看護専門学校	看 護 学 科	—	79



## 10. 卒業生の進路

### (1) 日本医科大学・日本医科大学看護専門学校 (単位：人)

学校名	大学院・学部・学科	進路	人数
日本医科大学	医学部	初期臨床研修 (日本医科大学附属四病院)	41
		初期臨床研修 (その他医療機関)	51
		その他	3
	大学院 医学研究科	大学・研究機関	2
		医療機関	20
		その他	1
日本医科大学 看護専門学校	看護学科	日本医科大学附属四病院	75
		その他医療機関	1
		その他	3

### (2) 日本獣医生命科学大学 (単位：人)

大学院・学部	学科・研究科	卒業生	進学	就職 希望者	就職 内定者	内定率	その他
獣医学部	獣医学科	90	4	72	71	98.6%	14
	獣医保健看護学科	103	11	90	89	98.9%	2
応用生命 科学部	動物科学科	97	15	78	77	98.7%	4
	食品科学科	87	3	82	81	98.8%	2
大学院	獣医生命科学研究科	21	2	19	18	94.7%	0

### \* 主な就職先 (単位：人)

社名	人数
一般財団法人 日本食品分析センター	2
公益財団法人 日本食肉格付協会	2
公益財団法人 東京都動物園協会	3
(株)中村屋	2
アニコム損害保険(株)	3
埼玉県(獣医師)	2
農林水産省	1

## 1 1. 国際交流活動

### (1) 外国人留学生受入れ状況

(単位：人)

国名	日本医科大学				日本獣医生命科学大学			
	総受入		新規受入		総受入		新規受入	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
中華人民共和国	9	14	5	10	0	1	0	1
台湾	2	0	2	0	6	5	6	5
大韓民国	2	1	0	1	0	4	0	4
タイ王国	10	6	10	6	14	0	14	0
ネパール連邦民主共和国	1	2	0	1	0	0	0	0
ミャンマー連邦	1	2	1	2	0	0	0	0
アメリカ合衆国	8	2	6	2	0	0	0	0
ドイツ連邦共和国	4	1	4	1	0	0	0	0
イギリス	2	1	2	0	0	0	0	0
フランス共和国	1	1	1	0	0	0	0	0
トルコ共和国	1	0	1	0	0	0	0	0
ベトナム社会主義共和国	1	0	1	0	0	0	0	0
アラブ首長国連邦	1	1	0	0	0	0	0	0
バングラデシュ人民共和国	1	0	0	0	1	1	0	0
カンボジア王国	1	1	1	1	0	0	0	0
モンゴル国	1	1	1	0	0	0	0	0
インドネシア共和国	0	1	0	1	1	0	0	0
オーストラリア	0	2	0	2	0	5	0	5
カナダ	0	1	0	1	0	0	0	0
オランダ	0	1	0	1	0	0	0	0
ウクライナ	0	1	0	1	0	0	0	0
カタール	0	1	0	1	0	0	0	0
エジプト	0	1	0	1	0	0	0	0
マレーシア	0	0	0	0	0	1	0	1
ニュージーランド	0	0	0	0	0	2	0	2
合計	19	41	19	32	22	19	20	18

※ 総受入とは前年度から継続して受入れている留学生と新規受入留学生の合計

## (2) 協定校からの外国人留学生受入れ状況

(単位：人)

協定校名	日本医科大学		日本獣医生命科学大学	
	H27	H28	H27	H28
西安交通大学	2	3	0	0
チェンマイ大学	6	3	3	0
タマサート大学	3	3	0	0
ジョージワシントン大学	3	0	0	0
ハワイ大学	2	0	0	0
浙江警察学院	1	2	0	0
哈尔滨医科大学	0	2	0	0
中国医科大学	0	1	0	0
南カリフォルニア大学	0	2	0	0
クイーンズランド大学	0	0	0	5
マッセイ大学	0	0	0	2
中興大学	0	0	6	5
全南大学	0	0	0	4
カセサート大学	0	0	3	0
コンケン大学	0	0	6	0
合 計	16	16	18	16

## (3) 短期留学状況

(単位：人)

国 名	日本医科大学		日本獣医生命科学大学	
	H27	H28	H27	H28
ジョージワシントン大学	0	3	0	0
南カリフォルニア大学	2	4	0	0
ハワイ大学	0	1	0	0
タマサート大学	1	1	0	0
米国国立衛生研究所 (NIH)	3	3	0	0
浙江警察学院	3	4	0	0
クイーンズランド大学	0	0	100	91
マッセイ大学	0	0	9	21
中興大学	0	0	3	5
タイ3校 (チェンマイ、カセサート、コンケン)	10	0	16	0
合 計	19	16	128	117

## 12. 管理運営等

### (1) 理事会、評議員会の開催状況

#### 1) 理事会開催状況

( )内は書面による出席者数

開催年月日		出席状況			議事内容等
		理事	監事	合計	
平成28年	4月26日	14	3	17	学校法人日本医科大学平成28年度給与改定に関する件等
	5月24日	14(1)	3	17	平成27年度学校法人日本医科大学決算(事業報告を含む)に関する件等
	6月28日	14	3	17	平成28年度上半期期末勤務手当支給に関する件等
	7月26日	14	3	17	次期日本獣医生命科学大学長の任命に関する件等
	9月27日	14	3	17	学校法人日本医科大学事務業務分掌規則等の一部改正に関する件等
	10月25日	14	3	17	日本医科大学大学院教授代行の任命に関する件
	11月22日	14	3	17	平成28年度下半期期末勤務手当支給に関する件等
	12月27日	14	3	17	法人寄附行為第6条第1項第3号理事の辞任に関する件等
平成29年	1月10日 (臨時理事会)	14	3	17	法人寄附行為第6条第1項第2号に定める理事、第5条第2項に定める理事長及び第23条第1項第4号に定める評議員の辞任に関する件等
	1月24日	14(1)	3	17	法人本部組織体制の変更及び関連規程等の一部改正に関する件等
	2月28日	14(1)	3	17	日本医科大学大学院医学研究科リハビリテーション学分野大学院教授の任命に関する件等
	3月28日	14(1)	3	17	平成29年度学校法人日本医科大学予算(案)及び事業計画(案)に関する件等

#### 2) 評議員会開催状況

( )内は書面による出席者数

開催年月日		出席状況				議事内容等
		評議員	理事	監事	合計	
平成28年	5月24日	36(2)	2	3	41	平成27年度学校法人日本医科大学決算(事業報告を含む)に関する件等
	11月22日	38(3)	1	3	42	学校法人日本医科大学平成28年度上半期収支状況報告等
平成29年	3月28日	38(4)	1	3	42	平成29年度学校法人日本医科大学予算(案)及び事業計画(案)に関する件等

## (2) アクションプラン21 (千駄木地区再開発) の進捗状況

平成 28 年度は、引き続き後期工事を実施した。後期工事では、救命救急センター (CCM)、透析センター、内視鏡センター、血管撮影室、ハイブリット手術室や病棟 (特別病棟を含む) などを整備している。また、29 年度オープンに向けて施設設備整備を行った。

### 1) これまでの工事の推移



平成 23 年 12 月 15 日  
(既存建物解体完了・地下工事中)



平成 25 年 5 月 14 日  
(地下階工事中)



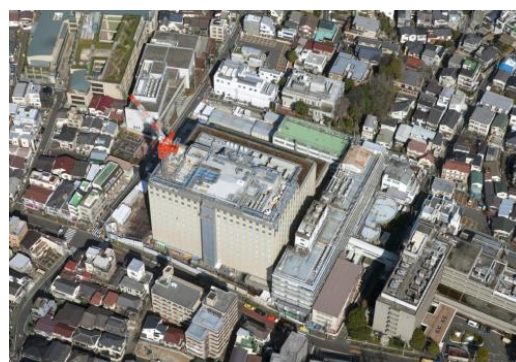
平成 26 年 6 月 13 日  
(前期工事完了後)



平成 28 年 3 月 12 日  
(A・B 棟解体工事後)



平成 28 年 9 月 12 日  
(後期建設中)



平成 29 年 3 月 11 日  
(後期建設中)

### (3) 武蔵小杉キャンパス再開発事業

武蔵小杉キャンパス再開発事業は、旧新丸子校舎地区における川崎市の小学校建設計画、同グラウンドにおける武蔵小杉病院の建て替え計画、武蔵小杉病院現用地における都市型住宅の建設計画について、川崎市の都市計画マスタープランに沿った再開発の協議・検討を行ってきた。

平成 28 年度は、条例環境影響評価見解書の提出、川崎市環境評価に関する条例に基づく公聴会開催、川崎市環境影響評価審議会における事業者説明を経て、10 月環境影響評価書を提出し、環境アセスに関する手続きを完了した。これに並行して計画地区計画の決定にかかる原案の縦覧、川崎市都市計画審議会の開催等の手続きを行い、8 月 30 日には川崎都市計画地区計画（小杉町 1・2 丁目地区地区計画）が決定した。また、武蔵小杉病院建て替えの基本構想策定を行った。

### (4) 労務管理・教育研修及び人材採用

- 1) ダイバーシティ（女性活躍推進・多様性就業）に係る制度制定及び関連規則の改正

- ① 女性医師・研究者を対象とする週当たり 20 時間勤務の「短時間勤務女性医師任用に関する基準」として制度を制定した。（平成 29 年 4 月運用開始）
- ② 平成 28 年 3 月の育児介護休業法及び男女雇用機会均等法改正に伴い、法人規則の「育児休業規則」及び「介護休業規則」を大幅改正した。（平成 29 年 1 月施行）
- ③ 「研修医等就業規則」及び「研修獣医師就業規則」に『慶弔休暇』規定を新設し、就業環境を整備した。（平成 29 年 4 月 1 日施行）

- 2) 日本医科大学の附属四病院看護職員の教育研修・人材育成

日本医科大学四病院看護職員の能力育成・教育研修を企画立案し、実施した。

- ① 臨地実習指導者講習
- ② 看護管理者海外研修（アメリカ国研修）
- ③ 家族看護研修
- ④ 看護管理者研修等

- 3) 日本医科大学附属四病院の看護師募集採用活動

多摩永山病院非稼働病床解消及び附属四病院の看護職員充実を図るため、平成 29 年度採用目標を 360 名と定め募集・採用活動を強化し目標を達成した。

### (5) 女性医師・研究者支援

- 1) 女性医師・研究者への支援に関する啓蒙活動

- ① 女性医師・研究者支援室、日本医科大学同窓会共催の懇親会を開催（8 月）
- ② 女性医師・研究者支援室講演会『続けよう、キャリア・育てよう、自分らしく～「あなた」の活躍を応援する組織と社会の大きな力～』を開催（講師：

山本修一千葉大学副学長、南砂読売新聞東京本社取締役) (2月)

- 2) 女性医師・研究者支援室会議の開催  
年5回開催し、ベビーシッター派遣型病児保育制度の利用者枠拡大(15名から40名へ)を決定。(平成29年度実施)
- 3) 学校法人日本医科大学併設保育所の定員受入れに関する改善  
定員に対する受入れ不足に関する改善を要求し、3月までに改善された。
- 4) 女性医師・研究者に関わる支援強化の要望書提出  
理事長、日本医科大学学長、付属病院院長に対し、女性医師・研究者に関わる支援強化を要望書として提出し、一定の同意を得た。

## (6) 財務の状況

- 1) 収支改善への取り組み  
月次の収支状況のフォロー、収支改善施策へ参画し、事業活動収支差額は予算を達成した。(事業活動収支差額 5.5億円 予算対比+3.6億円)
- 2) 民間金融機関から今年度合計で148億円の借入を実施した。低金利により借入金利息は減少した。
- 3) 募金活動体制を強化した結果、平成28年度の寄付金額は11.5億円となった。(特別寄付金6.8億円、施設設備寄付金3.9億円、現物寄付金0.9億円)

## (7) その他

- 1) ホームページのリニューアル  
法人の各ホームページについて、既存ページを新規ページに移行し、運用開始した。(3月29日)
- 2) eLTAX(地方税ポータルシステム)を導入  
eLTAX導入により、インターネットから職員の地方税事務業務(申告、申請・届出、納付)が簡便にできるようになり、業務改善及び省力化に寄与した。
- 3) 財務新システムの運用強化  
新システム移行2年目となり運用の安定性が向上、業務効率が改善し、時間外勤務の削減につながった。
- 4) 経費支出の見直し  
徹底的な経費支出の見直し・抑制を行うと同時に法人全体の支出抑制に繋がる付属四病院の医薬品及び医療材料の購入単価見直し及び統一化、保守・委託業者の見直しを実施した。
- 5) 学校法人日本医科大学医療安全監査委員会の設置  
改正医療法施行規則の施行(平成28年6月10日)に伴い、特定機能病院(付属病院)の医療安全に関する監査委員会を法人に置くため、規程を整備し委員会を設置した。

学校法人日本医科大学医療安全監査委員会規程を施行（3月29日）

学校法人日本医科大学医療安全監査委員会を設置（3月30日）

## （8）内部監査の状況

### 1）公的研究費の監査

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学において、平成27年度に交付を受けた文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金）、厚生労働省厚生労働科学研究費補助金及び厚生労働科学研究委託費に係る研究課題60件、同年度に独立行政法人科学技術振興機構等から委託を受けた研究成果最適展開支援プログラム及び戦略的創造研究推進事業等に係る研究課題6件、計66件を対象として、監査を行った。

監査に当たっては、不正が発生するリスク要因等を踏まえて、主としてそれらの公的研究費が適正に使用されているか、管理体制上改善を要する点はないかなどに着目して、証拠書類等関係書類の照合・確認等による書面監査（通常監査）及び研究者や非常勤雇用者等のヒアリング、購入物品等の現物確認、取引業者の帳簿等との突合、出張先への確認等による実地監査（特別監査）を行った。

### 2）資産備品の監査

法人本部管財部、日本医科大学、同付属病院、同呼吸ケアクリニック及び日本獣医生命科学大学における資産備品の管理・運用について、管理や処分は関係規則等に則って適正に行われているか、取得の目的に沿って利用され、適切に保全されているか、経理事務（資産登録、減価償却、除却処理等）は適正確実に行われているかなどに着目して、書面監査及び実地監査を行った。

### 3）看護職員宿舎に関するフォローアップ監査

平成24年度に実施した看護職員宿舎の管理運営に関する監査に基づく理事長からの改善等の指示及び監査報告書記載の監査意見について、法人本部管財部及び付属四病院がどのように取り組み、その結果はどうなっているか、また、当該取組に関し見直しを要することはないかなどに着目して、フォローアップ監査を行った。

### 4）厚生施設の監査

日本獣医生命科学大学における厚生施設（牧心セミナーハウス）の管理・運営について、適正な手続きにより、経済的・効率的に行われているか、施設は、その目的に沿って、有効に活用されているか、施設の管理運営について、更なる有効活用等を図る上で工夫を要する点はないかなどに着目して、書面監査及び実地監査を行った。



## Ⅱ 事業の概要

### 1. 日本医科大学

#### <主要報告事項>

##### 1) 私立大学研究ブランディング事業

文部科学省では、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学・私立短期大学に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援することから、ワーキンググループを立ち上げ、大学全体の事業として平成 28 年度事業に応募した。

##### 2) 平成 28 年度私立大学等改革総合支援事業

文部科学省と私立学校振興・共済事業団では、教育の質的転換、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体化して重点的に支援することから標記事業を助成しており、本学でも平成 28 年度タイプ 1 「教育の質的転換」に申請して、選定された。

#### <管理運営>

##### 1) コンプライアンス遵守のための取り組み

公的研究費の執行に関する説明会等の開催、医学部学生及び臨床研究者への APRIN (旧 CITI Japan) 導入や生物多様性条約締結国会議 (名古屋議定書) への対応を検討するなど、研究倫理、各種法令及び学内取扱要領等の遵守並びに不正防止に関する啓発活動を実施した。

##### 2) 自己点検・評価に関すること

2015 年度自己点検報告書を作成、公表した。

##### 3) 情報公開の状況

大学の教育研究上の目的、教育研究上の基本組織、教員組織等本学の教育研究活動等の状況についての情報を公開した。

#### <教育>

##### 1) 教育に関すること

- ① コンピテンスの下位基準であるコンピテンシーを制定した。
- ② 第 2 期 (5 年計画の 5 年目) がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの推進。(第 3 期 (平成 29 年 6 月～) 申請中)

##### 2) 教育力向上の取り組み

- ① 医学教育分野別認証評価を受審した。不適合項目はなかった。
- ② FD ワークショップを 2 回開催した。

### 3) その他

- ① 電子黒板約 50 台を導入したことで、レントゲン等ハイクオリティな画像の利用が可能となり、また、他グループの情報を学生間で共有できる等、教育の質的向上が図られた。
- ② 新学修支援システム (LMS) 及び学生・教職員向けポータルシステムの運用を開始した。
- ③ 大学院医学研究科にて e-learning 講義を開始した。

#### <研究>

##### 1) 研究体制の整備

日本医科大学付属病院生命科学研究センターを日本医科大学研究部共同研究施設へ移管した (4 月 1 日)。これに伴い、関連委員会組織及び運営体制を整備した。

##### 2) 文部科学省 競争的資金獲得件数・採択額

科学研究費助成事業のみ : 247 件 365,087 千円

##### 3) その他外部資金獲得件数・採択額

公的研究費 : 78 件 348,401 千円、財団等研究助成金 : 17 件 25,200 千円

##### 4) 共同研究・受託研究 件数・収入額

共同研究 : 26 件 28,248 千円、受託研究 : 5 件 4,335 千円

##### 5) 寄附講座・社会連携講座

- ① 寄附講座 2 件 (茨城県、脳病態画像解析学) の継続
- ② 寄附講座設置 2 件 (肺循環・呼吸不全先端医療学、脳神経外科地域医療システム学) の設置について審議を行った (平成 29 年 4 月設置)。
- ③ 社会連携講座 1 件 (細胞遺伝子治療学) の設置 (平成 28 年 10 月設置)。

##### 6) その他の教育研究関連外部資金導入状況

- ① 私立大学等教育研究活性化設備整備補助金 (次期学事システムデータ等を活用した IR システム) 9,794 千円
- ② 私立学校施設整備費補助金 (高速無線 LAN の導入) 14,969 千円
- ③ 学術研究振興資金 (若手研究奨励金) 500 千円

##### 7) その他

「動物実験に関する外部検証事業」による自己評価・点検を行い、外部委員会の検証を受審した。特に指摘はなかった。

#### <学生支援>

##### 1) 学生への経済的支援

新入生奨学金、在学奨学金により、学生への経済的支援を行った。

##### 2) 学生の活動に関する支援

新丸子校舎閉鎖に伴う学生運動施設として、新たに相撲道場の契約を行った。

### 3) その他

新丸子校舎グラウンドにクラブ活動を行う学生が利用するユニットハウスを設置した。

#### <国際交流>

平成 28 年度教員の海外研修助成事業の実施（13 件支援）。

#### <社会貢献>

##### 1) 大学間連携（科目等履修生などの受入れ）

- ① 東京理科大学との合同シンポジウム開催（12 月 17 日）
- ② 東京大学、東北大学、筑波大学、本学の 4 大学でアンチ・ドーピング研究のためのコンソーシアムを結成した（1 月 18 日）。様々な分野（自然科学領域・社会科学領域）において、関連研究を推進する。本コンソーシアムは、今後、他の大学・研究機関ともリソース（知見・人材等）の有機的連携を図り、我が国において世界の範となるアンチ・ドーピング研究体制の構築を目指す。

##### 2) 社会貢献としての高大連携

今年度は 2 校を受入れ、教員による講義を実施した。

##### 3) 地域社会連携

- ① 文京アカデミー（文京区）主催の文京アカデミア講座に参画し、3 大学連携（明治薬科大学、日本獣医生命科学大学、日本医科大学）による文京区在住の小中学生を対象とした講座を実施した。（7 月 25 日～27 日）
- ② 文京区生涯学習サークル連絡会学習会（本学の歴史についての講演、橘桜会館展示コーナーの見学）を実施した。（12 月 15 日）

#### <施設設備整備>

- 1) 学術研究用仮想サーバ基盤構築、共焦点レーザースキャン顕微鏡購入、マルチモードプレートリーダー購入、組換え DNA 実験室キャビネット及びフィルター交換等

#### <その他>

- 1) 教職員の資質向上を目的とした SD 研修会を 3 回実施した。

## 2. 日本獣医生命科学大学

### <管理運営>

#### 1) 入学試験制度改革の検討

平成 29 年度入学試験において、本年度見直しを行ったアドミッション・ポリシーに基づき、推薦入学試験における面接項目、評価方法の見直しを実施するなど、選抜方法の一部変更を行った。

#### 2) 入試広報センター業務の拡充と有効性の検証

- ① 「大学案内 2017」及び「平成 29 年度入学試験要項」を活用し、教育活動の充実を目的として策定した 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)及びアドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)）とそれに基づく各学科の教育・研究等について、受験生に周知し理解を促進、本学の魅力を伝える活動を展開した。

- ・学内受験生イベント（全 7 回）の総来場者数 2,795 名

- ・学外進学相談会（全国 17 会場）の本学ブースへの相談者総数 805 名

  - うち、大阪・名古屋の 2 会場において、学問分野紹介のための特設コーナー「学びステーション」を設置し、計 162 名の相談があった。

    - （大阪：78 名、名古屋：84 名）

- ・高校訪問（120 校）

- ・オープンキャンパスにおいて予備校講師による「一般入試問題対策講座（生物）」を新設。（総来場者数 346 名）

- ② 大学ホームページや大学ポータル等学外情報サイトの充実を図り、本学の教育・研究、国際活動、社会連携、入試情報等の情報発信を行った。大学案内動画 2 作品を作成し、本学 YouTube チャンネルに公開し、大学ブランドイメージの向上に努めた。

- ③ 全教職員を対象とした拡大 SD 委員会研修会を開催し、受験生が情報収集・早期認知しやすい環境づくりを今後も継続的に推し進めていくことが重要であることなどについて報告した。

#### 3) SD 活動の推進

① 平成 28 年度研修会を 6 回実施。

② 麻布大学と大学間連携 SD 研修会を実施した。

③ 若手職員を中心に私立大学協会主催の研修会に参加した。

#### 4) 大学戦略会議及び IR 推進センターを設置

大学マネジメント強化のため、大学戦略会議及び IR 推進センターを設置した。

（8 月 1 日）

#### 5) コンプライアンスの徹底

「日本獣医生命科学大学におけるコンプライアンスの取り組み」（最新版）を科

研費説明会で配布し、説明した。

6) 危機管理体制と危機対応能力の向上

- ① 日本医科大学武蔵境校舎との合同防火・防災訓練を実施。(11月28日)
- ② 本学自衛消防隊、武蔵野消防署、武蔵野市消防団、災害時ボランティアが連携した消防訓練を実施。(1月27日)

<教育>

1) 入学定員や教員数等の継続的検討

食品科学科の定員増について平成29年3月31日付にて文部科学省に申請した。

2) 獣医学教育改革に伴う取組みの推進

- ① 国際認証取得に向けて国際認証推進室を設置し、取得条件の整備を行った。
- ② 獣医学教育試行評価結果(平成27年度受審)に沿って獣医学科と連携して自己評価委員会にて対応することを決定した。

3) FDの取り組み

- ① 授業アンケートの実施や年2回ランチョン形式による学生との意見交換会を実施し、学生からの意見に基づき改善に努め、授業の充実を図った。
- ② FD講演会を3回、FDワークショップを1回実施し、教育の向上に努めた。
- ③ 学修支援システムについて、登録講義数832講義に対し、何らかの機能を利用している講義数は105講義(4月)から629講義(1月)となり、教員のシステム活用率は大幅に増加した。
- ④ 本学の学生教育並びにその推進に優れた貢献をした教員に贈られる紫雲賞に関連して「ベストティーチャー賞」「アクティブティーチャー賞」を設け、授業アンケートの「授業内容」「教授方法」における上位者、学修支援システムの活用推進者をFD委員会から推薦するなど、教員のモチベーション向上を図った。

4) e-learning 受講体制構築

研究倫理教育の受講方法の追加並びに特別講義の受講に際し講義収録配信システムを導入し、e-learningで受講出来る体制を構築した。

5) 大学院連携協定の締結

東京医科歯科大学大学院と大学院生受入の協定書を締結した。(11月1日)

6) ICT推進事業(教務・入試システム)の推進

平成28年度に本稼働となった学事(教務、学生、入試)、ポータル(学生専用サイト)、学修支援、証明書自動発行、インターネット出願の各システムについて安定した運用を行った。

7) 大学機関別認証評価の受審と自己点検評価制度の定着

- ① 大学機関別認証評価の適合認定を受けた。(3月7日)
- ② 新しい仕組みによる自己点検評価を実施するため、自己評価委員会規則を改正した。(平成29年4月施行)

- 8) 私立大学等改革総合支援事業（タイプ1）の獲得  
タイプ1に採択され、私立大学等教育活性化設備整備事業及び私立大学等教育研究装置施設整備費補助の交付を受けた。

<研究>

- 1) 野生動物対策等に関する教育研究活動の円滑な推進  
群馬県と締結した「野生動物対策推進に関する包括連携協定」に基づく業績報告を12月開催の協議会において行った。
- 2) 競争的研究資金の獲得
- ① 私立大学等改革総合支援事業のタイプ3「産業界や国内の他大学等と連携した高度な教育研究」について申請した。
- ② 「私立大学研究ブランディング事業」に応募した。
- ③ 若手研究者を対象に説明会を3回実施した。平成28年度科研費採択数は前年度を多少上回っている。
- ④ 受託研究・共同研究
- ・受託研究件数  
申請 29 件中研究開始 29 件 研究経費総額 49,048,301 円
  - ・共同研究件数  
申請 21 件中研究開始 9 件 研究経費総額 14,337,668 円

<学生支援>

- 1) ICT 推進事業（学生支援用システム）の推進
- ① 証明書自動発行システム導入により、利便性の向上と業務効率化、業務負担の軽減を図った。
- ② ポータル活用（履修登録等）について、今年度の履修登録期間の状況を踏まえ、食堂、講義室等への無線 LAN 環境の整備を実施し、学生のスムーズなアクセスを推進した。
- 2) 就職支援活動の強化
- ① キャリア教育について、低学年からの実施を推進した。
- ② 就職ガイダンス等の有効性について、就活総合講座時に参加者へアンケート実施。学生からのガイダンスメニューの評価を検証した。
- ③ 各種キャリア・就職支援の研修会・勉強会へ職員が積極的に参加し、カウンセリングの「質」を高めることに努めた。
- ④ 獣医師、畜産技術職、食品衛生監視員等の国及び自治体合同採用説明会を開催し、公務員就職対策を強化した。
- ⑤ 就職支援新システムにより利便性が向上し、就職ガイダンス参加学生数の増加につながった。（昨年比：105%）
- 3) 学生の経済支援に関する検討
- ① 緊急時の学生支援について、同窓会及び父母会と連携し、随時、支援でき

る体制を整えた。

- ② 父母会費を財源とした「学生への学会等学術活動への支援」により、学会・研究会に参加を希望する学生に対し、上期獣医学部学生 2 名、下期応用生命科学部学生 7 名、合計 9 名に経済的支援を行った。

#### 4) 学生相談室機能の強化

- ① 学生相談室の機能強化について、継続して委員会にて検討を行った。
- ② 8 月、9 月、1 月と 3 回のワークショップを開催した。各回とも複数の学科より参加者を得て、ものづくり、分析検査、動物に関する情報収集などの場を提供し、参加者の積極的な活動と交流を支援した。
- ③ 相談室業務に関連する情報を収集し、連携可能な組織・機関等の情報の共有に努めた。

#### 5) 学生の部活動の支援

- ① 飲酒、喫煙、ハラスメント、薬物乱用等について、ポータル（学生専用サイト）、掲示板により注意喚起を行い、学生の安全管理に努めた。
- ② ヴォーリス館について、防犯カメラ設置・警備、防災訓練等により学生の防犯、防災意識の向上に努めた。
- ③ 日本医科大学との部活動や大学祭の共同を推進し、1 年次学生の交流会開催や 2 大学の共同開催による第 1 回医獣祭開催について支援した。

### <国際交流>

#### 1) 海外大学学生等の受入れ

クイーンズランド大学（オーストラリア）より 5 名、マッセイ大学（ニュージーランド）より 2 名、中興大学（台湾）より 5 名、全南大学（韓国）より 4 名の合計 15 名の学部学生を受け入れた。

#### 2) 国際交流委員会主催のセミナーの開催

国際交流委員会主催の国際セミナー『1 日 1 回搾乳技術－Once A Day milking system－ニュージーランドの新酪農技術に関するセミナー』を実施した。（3 月 24 日）

### <社会貢献>

#### 1) 公開講座等の実施・農協及び行政との連携並びに武蔵野市民との交流

- ① 公開講座等を実施し、武蔵野市民に生涯学習の機会を提供するとともに、武蔵野市との地域連携を推進した。（出席者延べ人数）
  - 総合文化講座（前後期 8 回 360 名）
  - 武蔵野 5 大学共同教養講座・講演会（全 5 回 367 名）
  - 武蔵野市寄付講座（15 回 755 名）
  - 遊学講座（全 4 回 112 名）
  - 親と子の乗馬教室（121 名）
  - 一般市民向け講座「フランス語講座」（全 15 回前期 693 名、後期 440 名）

- 武蔵野自由大学科目履修生（23名）
- ② 動物介在活動の会実行委員会主催による「ふれあい乗馬会」が2回開催され、活動をサポートした。

<施設設備整備>

- 1) D棟改修工事（2期目）の実施
- 2) 日本医科大学とのネットワーク統合を継続的に実施

<その他>

- 1) 附属ワイルドライフ・ミュージアム  
平成29年度7月の公開テーマに従ってジオラマ、歴史展示室を整備し、大型動物の展示を進めている。
- 2) 動物医療センター  
平成28年度患畜数は次のとおり。  
犬：8,186件（前年度比：1,055件減）  
猫：1,867件（前年度比：19件増）  
他：1件（前年度比：3件減）
- 3) 附属牧場の動物の適正頭数の管理  
乳牛：54頭、肉牛：25頭（平成29年3月1日現在飼育頭数）



### 3. 看護専門学校

#### <主要報告事項>

##### 1) 質の高い看護を提供できる看護師の育成

本学の強みである日本医科大学四病院との連携、学習環境の整備により、質の高い看護を提供できる看護師の育成を行った。第106回看護師国家試験において、第22期生77名が合格した。

#### <管理運営>

##### 1) 教育の質の向上

- ・外部講師との連携によるカリキュラム運営
- ・新規実習施設の開拓、確保
- ・計画的な施設整備の実施

##### 2) 入学生募集活動

本学開催の学校説明会、個別相談、学校見学等の充実を行うと共に、看護医療系学校合同説明会や高校の進路相談会等へ積極的に参加する事で、優秀でたくましい学生の確保を行った。3回開催した本学開催の学校説明会への参加者は566名であり、平成27年度に対し、37名の増加であった。

#### <教育>

##### 1) 教育・研究、看護実践、管理能力の向上

教員のキャリアアップを目的とした研修会・学会等への参加を教員に促し、教育・研究、看護実践、管理能力の向上を図った。学内での全教員が参加する職場内研修会を2回実施した他、外部で実施される研修会、講演会、学会へ13名が参加した。

##### 2) 看護師国家試験対策

看護師国家試験100%合格に向けて、1年次から模試、補習講義等を計画的に実施、評価する事により、早期から成績不振者を把握し、対象者への個別指導を実施すると共に国家試験を意識した学習指導や精神面の支援を行い、主体的に学習できる学生の育成を行い、学年全体のレベル向上に取り組んだ。また、3年生担任を中心に、看護師国家試験に向けて、昨年同様に学校施設を開放し、学習環境を整え、担任を中心に個別的な学習指導を実施し、精神面を含めた支援を行った。

第106回看護師国家試験の合格率は97.47%であり、全国平均94.3%を上回る結果となった。また、昨年度不合格であった2名に対しても卒業後の継続支援を行い、結果、2名共に合格となった。

##### 3) 進学支援

助産師の資格取得を希望する学生に対し、学年担任が相談を受け、必要に応じて適任者が学習支援を実施した。助産師学校へ1名が進学した。

#### <学生支援>

##### 1) 経済支援

経済的困窮者に対する生活支援として、日本医科大学看護専門学校奨学金、千葉県奨学金、日本学生支援機構奨学金の利用支援を行った。

##### 2) メンタル支援

学内に学生相談員を配置し、教員との連携のもと、学生の精神面に対する相談体制の実施。学生自身が自主的に相談出来る環境を作り、必要時には家族との関係のもと、精神面に対する支援を実施した。

##### 3) 学生生活支援

学校祭、サークル活動、学生寮自治会等に対し、自治会顧問、学生寮担当者、学生寮管理人等を中心に連携を持ち、学生の自主的活動を支援。サークル活動や学校祭、戴帽式等の企画・運営を学生が中心となり、自主的に活動した。

##### 4) 就職支援

日本医科大学四病院への就職希望者に対する支援を実施。2年次では附属3病院の見学、3年次では附属四病院のインターンシップ参加の支援を行った。

#### <社会貢献>

##### 1) 学生のボランティア活動参加への支援

- ・災害実働訓練模擬患者：15名参加
- ・小児糖尿病サマーキャンプ：8名参加
- ・発達障害児ボランティア：2名参加

#### <施設設備整備>

竣工から25年以上が経過していることから、安全な学習環境の提供を目的とし、建物、設備、備品等に対する施設修繕を昨年度から計画的に実施。学生寮居室の床張替工事、校舎防水工事、学生食堂床、エレベーター等の改修工事、食堂機器の交換等を実施した。

## 4. 付属病院

### <主要報告事項>

- 1) 新病院（後期）における平成 29 年 11 月からの高度救命救急センター、内視鏡センター先行稼働、平成 30 年 1 月のグランドオープンに向けて、移転のための各種ワーキンググループを発足、前期移転時の反省点も踏まえて円滑な移転・稼働開始が行えるように活動を行っている。
- 2) 主要診療科と効率的・効果的医療が実現されているか DPC データ分析をもとに面談を実施し、パスの変更及び治療方法（投薬・検査・画像等）の見直しが可能か検討を進めた。
- 3) ISO15189 認定取得した。（12 月 8 日）
- 4) 差額ベッド利用状況と最適化を検証し、第 4 次改訂実施した。（1 月）

### <管理運営>

- 1) 業務内容及び収支を勘案した適正人員化  
各部門に亘り、業務内容の検証と人員の適正化の検証を行った。  
（B1F 検査部門の窓口縮小・精算機案内委託業務廃止）
- 2) 残業削減  
業務内容の見直しを進め、残業時間を削減し、労使協定上の上限 360 時間の厳守を図った。
- 3) 在院日数管理
  - ①長期入院抑制  
長期入院患者に関する転院への関与。また、緊急患者に対する入院当初からの患者支援センター（PSC）の関与による長期化の事前防止策の徹底を図った。
  - ②在院日数の短縮  
平成 28 年度診療報酬改定による DPC の理解と、入院期間 I 以内での転退院の促進、入院診療計画書及びクリニカルパス適用の徹底及び口腔科（周術期）介入による入院在院日数短縮を行った。
- 4) 医療の質、安全対策の実施（信頼性の確保）  
病院機能評価受審を通じて明らかになった課題等の改善及び定着を図った。
- 5) 職員の接遇向上  
研修等を通じ、「つくすところ」を以て患者の立場に立ったサービスの在り方を職員に徹底した。
- 6) 特定機能病院の承認要件変更に伴う対応  
要件に適合するための体制構築、内部通報窓口の設置と周知を行った。
- 7) 未収金対策  
コンサルタントによる未収金回収ノウハウの習得に努め、過年度分未収金の解消を進めると同時に、新規発生未収金に対しては早期に着手し縮減を進めた。

## <経費削減>

### 1) 医療経費削減

#### ①医療材料の購入費の削減

調達業務代行を導入し価格交渉、並びに代替品の提案等を行った。

#### ②医薬品購入費の削減と、後発医薬品の導入強化

後発薬の再見積もりを含む、単品単価交渉を推進した。また、新規に薬価収載された後発医薬品の積極的な採用を行った。

### 2) 管理経費削減

#### ①価格交渉の強化や手法の検討、契約内容の見直しの推進。

#### ②職員自ら経費削減へのアクションを起こす取り組みを図り、無駄の無い使用量や運用に努めた。(外注滅菌の削減、廃棄物削減、衛生材料の適正使用)

## <医療体制整備>

### 1) 入院

#### ①患者申出医療への対応

患者申出医療について、対応窓口及び相談があった際のフローを整備した。

#### ②クリニカルパス適用拡大の推進

パス適用拡大により医療の標準化を進め、DPCに見合った無駄の無い検査や投薬を実施した。また、パス適用によるベットコントロールの容易化と病床稼働率向上に努めた。

#### ③機能評価係数Ⅱを確保するための対策

在院日数を短縮させ、効率性指数の確保。また、脳卒中地域連携数を上げ、地域医療指数の確保を行った。

#### ④病床管理体制の強化

円滑な病床運用実施及び空き病床を最小限にし、待機患者の削減に努めるべく、一層の院内協力体制の整備を推し進めた。

患者支援センター（PSC）の運用強化、混合病床化による稼働率向上、病床の有効的利用強化。

#### ⑤救急入院患者の受入促進

緊急入院のスムーズな受け入れ体制の構築及び病床確保、緊急入院時の早期患者支援センター（PSC）の介入による入院の長期化防止

### 2) 外来

#### ①適切な診療体制の徹底

午後の専門外来の拡大、土曜日の外来予約枠の拡大、土曜日の外来日帰り手術枠の拡大を行った。

#### ②ユニバーサル外来の見直し

診療科の診療実績等を勘案し、外来の診察室の割当の再検討し、ユニバーサル外来の一部ブース見直しを実行した。

### ③口腔科診療の拡大

口腔科診療の拡大として周術期、放射線治療、化学療法患者の積極的な院内紹介体制の構築を行った。

#### 3) 外来検査・化学療法

入院前外来検査の徹底、DPC を意識した検査体制の徹底、外部依頼検査の院内への取り込みを行った。また、放射線検査の効率的な体制整備を継続して進め、検査待ち日数を短縮した。

#### 4) リハビリテーションの増加

高次脳機能障害をはじめ、リハビリの早期導入及び全体件数を増加させた。

#### 5) 栄養指導件数の増加

平成 28 年度診療報酬改定に於いて、栄養指導管理料がほぼ倍増となったことに対応し、大幅に栄養指導件数を増加させた。

#### 6) 生理機能検査体制の充実

10 室ある超音波検査室の稼働向上。人員配置の見直しについては終了。

#### <施設基準>

##### 1) 施設基準の新規届出

- ①医師事務作業補助体制加算 100 対 1
- ②医師事務作業補助体制加算 75 対 1
- ③国際標準臨床検査管理加算
- ④精神科急性期医師配置加算

#### <医療連携>

##### 1) 地域医療連携医療機関との連携の更なる強化

本学同窓会、各地区医師会との結びつきを強化し、地域医療機関との更なる連携強化に取り組み紹介率・逆紹介率の向上を図った。特に近隣地区同窓会との緊密な連携を図った。

##### 2) 後方連携医療機関宛訪問活動の強化

##### 3) 脳卒中連携パスの強化（地域医療指数・体制評価指数 UP）

##### 4) がん地域連携の強化（地域医療指数・体制評価指数 UP）

##### 5) 退院支援加算取得に向け連携医療機関（20 以上）との関係構築と訪問

##### 6) 地域医療機関に向けた特色のある診療のアピール強化（ブランディング化推進）

#### <施設設備整備>

##### 1) 本館地下 2 階医療材料室間仕切り工事

##### 2) 東館非常用発電装置設備更新工事

#### <社会貢献>

##### 1) 災害派遣等

###### ①先進国首脳会議（G7 伊勢志摩サミット）

医療救護班として 1 チーム（医師 2 名、看護師 1 名）

事態対処班として1チーム（医師2名、看護師1名、調整員1名）を派遣  
（5月25日～28日）

②熊本地震

東京都の要請により、熊本県へ医療救護班（医師2名、看護師1名、調整員1名、  
医学生1名）を派遣し、被災地での医療救護活動を行った。

（4月21日～26日）

③地域災害医療連携会議

区中央部（千代田、中央、港、文京、台東）の災害拠点病院等をまとめる「医療  
対策拠点」として、区中央部における災害時の医療体制について検討を行った。

（年3回）

2）地域社会連携（公開講座の実施等）

①がん診療連携拠点病院啓発・情報提供事業市民講座（3月18日）

②糖尿病週間に係る講演会及び相談ブース設置（11月12～14日）

## 5. 武蔵小杉病院

### <主要報告事項>

#### 1) 病床及び手術室の有効活用促進

外来及び入院患者数の報告（病室の空き状況）、手術枠の使用状況について情報の共有を行い、病床稼働状況、手術枠の有効活用を促進した。

#### 2) 在院日数の管理

患者支援センター（PSC）の介入による長期入院の抑制や逆紹介（転院）の推進を行い、病床利用の効率化に努めた。

### <管理運営>

#### 1) 診療体制の確保

各診療科の学会出張について座長や発表者を除き、診療並びに手術実施体制に影響がでない範囲で参加することを基本とした。

#### 2) 紹介患者・救急患者の積極的受入れ

紹介患者並びに時間外・休日の救急患者を積極的に受け入れ、紹介元医療機関や救急隊との連携を図った。

### <経費削減>

#### 1) 医療経費

医療経費は、後発医薬品の推奨や新規医薬品及び新規医療材料の購入抑制等により費用削減に努めた。

#### 2) 管理経費

施設設備の老朽化対策が急務であるが、安全面並びに労働環境等を考慮しながら必要最低限の工事・改修に留めることにより、経費削減に努めた。

### <医療体制整備>

#### 1) 外来診療受付時間の統一

各診療科の午前中の診療受付終了時間を 11 時 30 分に統一し、患者サービスの向上を図った。

#### 2) 救急患者応需率の向上

時間内の二次救急要請を救命救急センターが受け、トリアージする体制にした。また、時間外・休日の応需状況を把握し応需率向上に努めた。（6 月）

### <施設基準>

#### 1) 新規届出

- ① 夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算
- ② 夜間看護体制加算
- ③ 精神科リエゾンチーム加算
- ④ 認知症ケア加算 1
- ⑤ 乳房 MRI 撮影加算

- ⑥ 硬膜外自家血注入
- ⑦ 下肢抹消動脈疾患指導管理加算
- ⑧ 乳腺悪性腫瘍手術
- ⑨ 胆管悪性腫瘍手術
- ⑩ 看護職員夜間 16 対 1 配置加算
- ⑪ 病棟薬剤業務加算 2

2) 変更届出

- ① 「看護職員夜間 16 対 1 配置加算」を「看護職員夜間 12 対 1 配置加算」へ変更

<医療連携>

1) 紹介元医療機関への訪問

院長、副院長、診療科部長による紹介元医療機関の訪問を実施。

<施設設備整備>

1) 施設設備整備

中央手術室系統チラー整備、医療系蒸気主管改修工事等、X線一般撮影装置、血管造影 X線装置の各管球交換、A館東病棟ナースコール更新工事（第Ⅱ期工事）を実施。

<社会貢献>

1) 災害派遣等

日本 DMAT、神奈川 DMAT、川崎 DMAT として活動

- ① 熊本地震にて DMAT 活動（4 月 18 日～22 日）
- ② 川崎市、神奈川県、厚労省 DMAT 事務局、内閣府主催の災害訓練に計 5 回参加

2) 地域社会連携（公開講座の実施）

月 1 回、各診療科の医師が地域住民に対し、病気や予防法の知識を深めてもらうために実施。（全 12 回：年間 1,085 名参加）

<その他>

1) 川崎市中部小児医療センターの運営

平成 25 年 4 月から川崎市中部小児急病センター（18：30～23：00）の運営を院内にて実施。（受診患者数 28 年度 5,858 人、27 年度 5,825 人、26 年度 5,485 人）

2) 街ぐるみ認知症相談センターの運営

保健医療、介護機関等と連携を図り、認知症疾患に関する鑑別診断や専門医療相談等、地域保健医療、介護関係者の研修を実施。

- ① 認知症市民公開講座の実施（1 回）
- ② 専門職向け公開講座の実施（3 回）

3) がん患者フォーラムの運営



がんの講義を受講することにより知識を得て生活へ役立て、またがん患者及びその家族が同じ立場同士で、悩みや思いを語り合えることを目的として実施。

(全2回：年間144名参加)

## 6. 多摩永山病院

### <主要報告事項>

#### 1) 稼働病床の増床

371床から383床に稼働病床を増床した。(10月1日)

### <管理運営>

#### 1) 永山再生プロジェクト

効率的な運営のために経費削減、医療連携、保険診療に関するプロジェクトを立ち上げ、ごみ削減や近隣医療機関訪問、加算の取り漏れ防止策について検討した。

#### 2) 周術期歯科診療

近隣の歯科医院と連携を図り、治療効果の向上に向けた取り組みを行った。

#### 3) 感染・医療安全

相互ラウンド・サイトビジットを通じた管理徹底や、講演会や講習会を通じた職員への啓発啓蒙を行った。

#### 4) 救急患者受け入れ

救急応需率の向上を図るべく、詳細状況を把握するシステムを導入し、同時に表彰制度も立ち上げた。

#### 5) A棟4階病棟の運用充実

運用基準を36床から48床に引き上げた。(10月)

#### 6) 手術室増設による手術患者受入枠拡張

手術室の増設により手術室の運用が改善され、入院患者の受け入れが円滑になった。

#### 7) NICU(新生児集中治療室)設置による新生児受け入れ体制確保

NICU3床を開設した。(7月)

重症新生児の集中管理がしやすい環境となり稼働率が上がった。(稼働率102.3%)

#### 8) 形成外科外来開設

### <経費削減>

#### 1) 管理経費

① 廃棄物の分別を徹底し、処理費用を軽減した。(約310万円の経費削減)

② 光熱水費の削減(約3,000万円の削減)

③ 職員寮の運用を見直し、新規契約戸数の適正化に努めた。

④ 業務改善により残業時間を削減した。(7,654時間の削減)

### <医療体制整備>

#### 1) 救命救急センターの連携強化

内科、外科、救命救急センターの連携を強化し、重症患者に対する各診療科

合同での治療体制を整えた。

#### <施設基準>

- 1) 新規届出
  - ① 認知症ケア加算
  - ② 新生児集中治療室加算
  - ③ 夜間 100 : 1 急性期看護補助体制加算
  - ④ 夜間看護体制加算
- 2) 変更届出
  - ① 「50 対 1 急性期看護補助体制加算」を「25 対 1 急性期看護補助体制加算」へ変更

#### <医療連携>

- 1) 地域救急会議開催  
近隣の 2 次救急医療機関、精神科救急施設と救急患者受入れについての意見交換を行った。
- 2) 医療連携講演・情報交換会開催  
院内外の 146 名が出席し、連携を深めた。
- 3) 新規紹介患者の確保  
医師による医療機関訪問を年 300 件以上行い、紹介患者の確保に努めた。
- 4) 医療連携登録施設  
新規の医療連携登録施設数が 10 件となり、総数で 300 件超となった。
- 5) 逆紹介の充実  
逆紹介が前年度比 9.2%増となった。
- 6) 医療連携ニュースの充実  
診療科紹介、勉強会のお知らせを毎月発行した。
- 7) ホームページの有効活用  
診療紹介、外来担当表、お知らせ（公開講座等）の情報を適宜更新し、利便性の向上を図った。

#### <施設設備整備>

- 1) NICU（新生児集中治療室）設置並びに病床の移動  
3512 号室（6 床）を改修し NICU3 床を設置した。これに伴い C5 病棟内に 2 床、B5 病棟に 1 床移動した。
- 2) 第 8 手術室の増設  
中央手術室内に手術室を 1 室増設した。（10 月使用開始）

#### <社会貢献>

- 1) 災害派遣等  
広域災害対応の DMAT 訓練に参加、また南多摩医療圏の災害活動にも深く関与した。

2) 地域社会連携（公開講座の実施等）

市民公開講座、がん公開講座、公民館への出張講演など精力的に行った。

3) その他

がんサロン、がんセミナーを開催し、患者並びに家族への情報提供を行った。

<その他>

閉鎖していたC棟立体駐車場の使用を再開した。(52台)

## 7. 千葉北総病院

### <主要報告事項>

#### 1) 高度急性期医療の展開

「地域中核病院としての機能」を基盤に、ドクターヘリ事業を最大活用した「救命救急、急性期脳卒中、循環器救急などの高度急性期医療」を展開。

#### 2) がん診療連携拠点病院の指定に伴う診療実績の向上

印旛医療圏がん診療連携拠点病院として、重点的な地域医療機関訪問、講演会企画、該当診療科の得意領域、特色領域の宣伝活動を展開。(地域医療機関 635 件訪問、がん関連講演会 13 回実施。パンフレットを地域医療機関に配布。)

#### 3) 外国人患者受入れ拠点病院の周知

「外国人患者受入れ拠点病院」であることを周知し、訪日する外国人、日本に在住する外国人の患者の受診を促進できた。(延べ 436 名:訪日 71 名、在日 365 名)

### <経費削減>

#### 1) 医療経費 (医療材料)

費用便益分析をもとに品目の整理を図ることで減額・効率化を実施した。

#### 2) 医療経費 (医薬品)

薬剤師による TDM (治療薬物モニタリング) の実施により適正な抗菌薬の使用を図り、後発医薬品への変更により購入単価を削減した。

#### 3) 管理経費

保守経費・清掃業務委託費の見直しを実施した。

### <医療体制整備>

#### 1) 救急患者受入

二次・三次救急患者受入れの強化、ドクターヘリ、ラピットカーの効果的運用を行った。

#### 2) 画像診断の効率化と収益増大

単純 CT 撮影について、毎週月～土曜日の午前 8 時 30 分から実施することとした。(1 月)

### <施設基準>

#### 1) 新規届出

- ① 急性期看護補助体制加算
- ② 夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算
- ③ 夜間看護体制加算
- ④ 診療録管理体制加算 1
- ⑤ 排尿自立指導料

### <医療連携>

1) 逆紹介の推進

患者支援窓口を開設し、外来診療の機能分化及び逆紹介先となる医療機関の掲示を行った。(前年比 6.1%増)

2) 地域医療連携の強化

重点的な地域医療機関訪問を実施

3) がん相談支援センターの開設

がん診療拠点病院指定に伴い、がん相談支援センターを開設した。

<施設設備整備>

1) がん相談支援センター、結核病床の整備(平成 29 年 2 月結核病床 2 床運用開始)

2) 駐車場を整備し有料化(11 月)

3) 院内監視カメラ設置

<社会貢献>

1) 災害派遣等

平成 28 年熊本地震発生における千葉北総 DMAT(関東ロジスティックチーム)の活動(4 月 16 日~19 日)

2) 地域社会連携(公開講座の実施等)

市民公開講座の開催(年 3 回)

3) 環境問題等への取り組み

CO2 削減事業(ESCO 事業の導入)(CO2 年間排出量 9,127 t-CO2(前年比 12.7%減)、光熱費 8,700 万円削減)

<その他>

結核モデル病床の設置

## 8. 健診医療センター

### <主要報告事項>

従来の方針と同様に PET 検査を中心に臨床検査、健康診断、治験・研究の事業を展開した。

- ① 臨床検査の紹介依頼に努め、健康保険検査紹介件数が大幅に増加した。
- ② 健康診断は下半期の実績減のため年間全体として若干減少した。
- ③ 治験実施件数はほぼ横ばい推移した。依然として収入の大きな柱となっている。

### <管理運営>

- 1) 検査サービス支援契約の大幅改定にともなう支払契約金額の減少を背景に収支改善を目指し、大幅な収支改善を達成した。
- 2) 未収金について、支払遅延のチェック、迅速な催促を行うなど対策を徹底し、長期未収金がない状態を維持している。

### <収入>

- 1) 冬季の健康診断件数が急減(昨年比 23%減)し、全体医療収入の減少を招いた。
- 2) 特色のひとつである外国人健康診断は、昨年度に比べて若干減少したが、引き続き多くの件数を維持した。(実績 465 件)

### <経費削減>

- 1) 効果が少ないと見られる広告を取りやめた。
- 2) 医療材料の見直しを行うとともに、合理的な使用方法を検討し経費削減を行った。

### <体制整備>

看護師、放射線検査技師を増員し、検査の質向上、医療事故対策体制の充実を行った。

### <社会貢献>

医療通訳講座などで講演し、経産省後援の日本医療国際展開への貢献を行った。

### <その他>

- 1) 薬品メーカーより神経内科の検査データ提供に伴う検査を実施し寄付金を獲得した。
- 2) 企業健診コンサルティングを行い、収入実績をあげた。

## 9. 呼吸ケアクリニック

### <主要報告事項>

#### 1) クリニック事業活動収支差額

収支差額が予算を大幅に上回り、開所以来の目標を達成した。

#### 2) 学術研究関係

学術研究活動に対して積極的な支援を行う体制を構築、科研費 3 件の交付が決定した。

### <管理運営>

慢性呼吸器疾患認定看護師資格取得、CPAP 療法士の資格認定に対して、積極的に講座への参加を促した。これにより医師との協同によるチーム医療を推進した。(認定看護師研修:看護師 1 名、CPAP 療法士認定講座:看護師 4 名)

### <収入>

1) 延患者数、医療収入ともに予算を大幅に上回った。延患者数は 21,000 人を超え、医療収入は開所以来初めて 50,000 万円を上回り、順調に伸びている。

2) 初診患者数の増加。(初診患者数昨年度比 131 名増)

3) 検査収入が大幅に増加した。(肺機能検査昨年度比 290 万円増他)

### <経費削減>

必要最小限の備品購入に努め経費削減を図った。但し、患者数増大に伴い、増収が見込める備品については、導入後の収支試算を行い購入した。

### <体制整備>

検査技術員が 1 名体制から 2 名体制へ移行したことにより、安定的な検査の実施が確保され、医療収入増さらには残業時間の削減が図られた。

### <医療連携>

軽症例の患者を地域医療機関へ逆紹介することで診診連携が進み、再初診患者数を増やすことに繋がった。これにより急性増悪時の対応もスムーズになった。

### <施設設備整備>

一酸化窒素ガス分析装置を購入し、主に喘息患者の気道炎症状況を非侵襲的に測定するのに役立てた。これにより医療収入の増収にも繋がった。

### <その他>

1) 慢性閉塞性肺疾患に関する検査について、理化学研究所との共同研究で特許を取得した。

2) 特別寄付金総額が目標を上回った。(目標 500 万円⇒実績 700 万円)

3) 医師一人当たり 延患者数 5,250 名 12,500 万円であり、医師一人にかかる負荷が限界に近付いている。



## 10. 成田国際空港クリニック

### <主要報告事項>

平成 28 年の成田国際空港の国際線利用者のうち、日本人利用者は 1330 万人（前年 2%増）。外国人利用者は 1392 万人（前年 11%増）となり、昭和 53 年の開港後初めて外国人利用者が日本人利用者を上回った。空港内の事業者の組織再編に伴う統廃合などの要因が重なり当クリニックの利用者の中心となる日本人利用者数が減少している中、一般診療の受診者が対前年比 4%増加となった。

### <管理運営>

- 1) 健診者数が平成 24 年度から平成 27 年度の 4 年間で約 45%増加したため、基本的な健診は土曜日の受入も開始した。本年度の健診者数は対前年比 8%減少した。
- 2) 慢性疾患患者数は空港内従業員を中心に微増となった。
- 3) 人間ドック受診者数 199 人（昨年度比 20%増加）

### <体制整備>

- 1) 24 時間 365 日救急患者の受入れ体制を継続。
- 2) 成田国際空港株式会社との協力体制を維持。

### <施設設備整備>

CT 装置入替を実施。9 月末に入替作業が完了した。

### <社会貢献>

航空機事故対応訓練時に空港内スタッフへの教育実施。

## 11. 腎クリニック

### <主要報告事項>

医療機関からの患者受け入れを積極的に進め、患者数 60 名程度の目標に対し年間平均 67 名（PD、G-cap 含む）の患者数となった。

### <管理運営>

クリニック勤務者の安全確保、連携強化のため、毎月 1 回のミーティングを開催し、患者情報の共有、スタッフの負担削減を行った。

### <経費削減>

ジェネリック薬剤を使用し、検査項目・材料費等の見直しを行い支出削減に努めた。

### <体制整備>

- 1) 人工透析以外の血液浄化療法（G-cap、LDL）等の受け入れ。
- 2) 「糖尿病合併症管理料」算定件数の増加。
- 3) クリニックにおける患者の安全管理、透析機器等の管理体制の充実を目的として、看護師、透析技師の研究会・講演会へ参加。
- 4) 付属病院腎臓内科以外の付属診療科との連携体制を整え、血液浄化療法対象患者の受け入れを行った。

### <医療連携>

- 1) 東大病院、東京医科歯科大学病院、順天堂医院等への透析患者の紹介、受け入れを実施した。
- 2) 患者のかかりつけ医院（歯科、眼科、整形外科等）への検査・診察依頼を実施した。

### <施設整備>

老朽化している透析機器等の更新および修繕を実施。

### <その他>

他の医療機関からの実習生（看護師、技師）受け入れを行った。

## 12. ワクチン療法研究施設

### <主要報告事項>

- 1) SSM(丸山ワクチン)有償治験の基幹治験施設としての業務を継続的に行った。
- 2) SSM有償治験登録データの整理、解析方法改善、研究報告検討に着手した。

### <管理運営>

カルテの電子化に着手した。

### <医療連携>

他の診療施設との連携強化のため、手紙、FAXによる連絡を一層緊密に行った。

### <社会貢献>

癌の免疫療法発展のため、学外関連団体と連携し啓蒙活動を行った。

## 13. 先端医学研究所

### <主要報告事項>

- 1) 病態解析学部門新体制の整備
- 2) 病態解析部門実験室等の改修
- 3) 大型寄贈備品（水槽システム、電子顕微鏡）の搬入

### <管理運営>

- 1) 共同利用研究施設  
RI 実験施設、実験動物飼育施設、生体内分子動態・形態総合解析システム、共焦点レーザー走査型顕微鏡の設備維持
- 2) 部門等配分教育研究経費  
予算遂行状況をチェックし、配分された予算を計画的に支出した。

### <経費削減>

- 1) 管理経費  
実験材料等の使用効率を推進し、医療廃棄物、粗大ゴミ等の廃棄を抑制した。
- 2) 教育研究経費  
計画的に予算遂行することにより、適切な購入を行った。

### <体制整備>

- 3) 細胞生物学分野大学院教授の選考
  - ① 第1回細胞生物学分野大学院教授候補者選考委員会開催(太田大学院教授定年退職の為)(10月18日)
  - ② 第2回細胞生物学分野大学院教授候補者選考委員会開催(3月2日)

### <施設設備整備>

動物実験室、RI 実験室等の空調機器老朽化対応工事の実施

### <その他>

- 1) 科学研究費補助金 申請件数 平成27年度22件、平成28年度22件
- 2) 寄付金収入 寄付金受付件数 平成27年度8件、平成28年度11件

## 14. 国際交流センター

### <主要報告事項>

#### 1) 医学部学生の短期留学

- ① 平成 28 年度日本医科大学医学部学生国際交流助成金の支給  
(総支給額 1,750,000 円 申請件数 21 件)
- ② 平成 28 年度医学部学生留学報告会の実施 (6 月 27 日、11 月 17 日)
- ③ 日本医科大学医学部学生留学報告書冊子 Vol. 9 の作成

#### 2) 外国大学との学術交流

- ① チェンマイ大学医学部長一行 (7 人) が日本医科大学を訪問 (4 月 12 日)
- ② チェンマイ大学附属マハラナコン病院の看護管理者 (4 人) が日本医科大学附属病院で交換研修を実施 (7 月 7 日～14 日)
- ③ 浙江警察学院の学生 (4 人) が学生間交流のため日本医科大学を訪問 (8 月 1 日～7 日)
- ④ 日本医科大学医学部学生 (4 人) が学生間交流のため浙江警察学院を訪問 (11 月 3 日～5 日)
- ⑤ チェンマイ大学研究者一行 (7 人) と日本医科大学研究者との研究カンファレンスを日本医科大学で開催 (11 月 21 日)
- ⑥ 日本医科大学・チェンマイ大学友好 50 周年記念式典をチェンマイ大学で開催 (12 月 22 日～23 日)

#### 3) 外国人留学生への支援活動

- ① 第 27 回外国人留学生研究会を開催 (橘桜会館 2 階橘桜ホール) 発表演題 12 題  
(優秀賞 3 件、奨励賞 1 件、審査員特別賞 1 件) (2 月 4 日)
- ② 外国人留学生奨学金の支給 総支給額 15,000,000 円
- ③ 平成 28 年度外国人留学生学外研修の実施 (7 月 9 日)
- ④ 外国人留学生受入部署に対する教育経費の支給 総支給額 1,316,546 円

## 15. 知的財産推進センター

### <主要報告事項>

- 1) 知的財産に関する業務
  - ① 国内特許出願を13件（日医大11件、日獣大2件）、外国特許出願を4件（日本医科大学）行った。
  - ② 国内4件（日本医科大学2件、日本獣医生命科学2件）、外国5件（日本医科大学）の特許権が成立し、保有特許権は国内44件、外国20件となった。
  - ③ 企業への実施許諾等により、約880万円の実施料収入を得た。
- 2) 産学官連携の推進
  - ① 日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の研究に関する契約の締結支援を行った。
- 3) 利益相反マネジメントに関する業務
  - ① 法人常勤理事及び専任教員を対象に定期自己申告を行うと共に、公的研究費申請時、臨床研究実施時における利益相反マネジメントを行った。

### <管理運営>

- 1) 知的財産に関する業務
  - ① 発明の評価基準・発明届出の改訂、発明対応手順の見直しを図った。
- 2) 産学官連携の推進
  - ① 秘密情報管理ポリシーを制定し、日本医科大学及び日本獣医生命科学大学への周知に務めた。
- 3) 利益相反マネジメントに関する業務
  - ① 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改正等への対応を検討した。

### <体制整備>

利益相反マネジメント業務を知的財産推進センターから研究統括センターに移管することが決定したため、関連規程の改正、引継ぎ等の業務を行った。

### <社会貢献>

企業からの技術相談を受け、対応可能な研究者を紹介して、共同研究につなげることができた。

## 16. ICT推進センター

### <主要報告事項>

- 1) 新学事システムプロジェクト開始（大学）  
日本獣医生命科学大学及び看護専門学校は平成 27 年度に開発を完了し、運用を開始した。日本医科大学は平成 29 年度からの運用開始に向けた開発を実施した。
- 2) LMS・ポータルシステム運用開始（大学）  
新学修支援システム（LMS）及び学生及び教員向けポータルシステムの運用を開始した。
- 3) e-Learning 講義の開始（大学）  
日本医科大学大学院医学研究科にて e-Learning 講義を開始した。
- 4) サーバ仮想化プロジェクト開始（病院）  
医療情報システムの導入費用、保守費用等の削減を目指し、院内に散在した部門サーバの統合を仮想化技術適用し計画的に開始した。付属病院において 2 部門システムを仮想基盤上に集約した。
- 5) ICT 中期計画策定（病院）  
四病院を中心とした医療情報システムに関して、導入費用と更新時期に基づく中期的な現状を表とグラフに纏めた。今後の投資計画立案に向け、そのベースとなる試算を行なった。

### <管理運営>

- 1) ICT 推進委員会  
年 6 回の ICT 推進委員会を通し、学校法人全体における情報化方針・戦略の立案及び、検証を行なった。委員会での決定事項を漏れなく実行した事と併せ、ICT 予算策定の観点から必要な新委員を任命した。

### <経費削減>

- 1) ICT 案件のコスト削減  
各所属の ICT 案件に対し、ICT の知見を活かした確認及び各ベンダーと交渉を行った。2 病院（千葉北総病院・多摩永山病院）の放射線部門システム保守契約費用の見直しをはじめ、収支改善に努めた。

### <体制整備>

- 1) 広報課と連携した新ホームページへの切替え体制整備  
新ホームページに関する本番環境への切替えに関して、複数の開発業者と連携の上、切替えを行う体制を構築した。構築した体制が奏功し、3 月末に無事、本番切替えが完了した。

### <施設設備整備>

- 1) 日本医科大学における高速無線 LAN 設備工事への支援  
平成 28 年度文科省助成による高速無線 LAN 設備工事を実施する上で、技術的支

援を行った。医学部教育棟、大学院棟、武蔵境校舎への無線 LAN 設備工事に関して、技術的観点から支援した。

<その他>

文部科学省の私立大学等改革総合支援事業等の補助金関連の申請支援を行った。



## 17. 研究統括センター

### <主要報告事項>

- 1) 大学間連携の充実  
東京理科大学との合同シンポジウムを日本医科大学で開催した。(12月17日)
- 2) 臨床研究のサポート  
研究者からの臨床研究デザインの相談業務を開始した。(6月)
- 3) 大学研究ブランディング事業  
ブランディング事業について、「救急集中」と「がん」を中心に進めることを確認し、データベース等の基盤整備を関係部署とともに進めることとなった。申請のためのワーキンググループの立ち上げ、申請を行った。

### <管理運営>

- 1) 学校法人日本医科大学中央倫理委員会の運営  
研究管理部門に同委員会事務局を置き、委員会事務を開始した。(4月)
- 2) 各部門のつながり重視  
企画・マネジメント部門、研究管理部門、臨床研究支援部門の責任者会議を開催。(年3回)

### <体制整備>

- 1) 知財センターとの連携  
利益相反マネジメント委員会事務局業務について、知財センターから移管手続きを行った。(平成29年4月1日施行)
- 2) 研究統括センター運営委員会  
運営委員会を開催した。(5月12日)
- 3) 千駄木地区倫理委員会の申請書類の受付  
大学および附属病院倫理委員会、および附属病院薬物治験審査委員会(IRB)の申請受付を行った。(2月から継続中)
- 4) 千駄木地区倫理委員会の申請書類事前審査  
上記各倫理委員会申請書類の事前審査(スクリーニング)を行った。(2月から継続中)
- 5) 臨床研究におけるオプトアウト揭示の開始  
倫理指針で求められている、研究についての情報公開とオプトアウトを行うWEBページを公開した。(6月)

## Ⅲ 財務の概要

### 1. 資金収支計算書

#### ( 収入の部 )

(単位:百万円)

区 分	H27実績	H28実績	対前年度
学生等納付金収入	6,447	6,499	52
手数料収入	250	314	64
寄付金収入	586	1,063	476
補助金収入	4,560	4,847	287
資産売却収入	0	1,351	1,351
補助活動収入	50	56	6
付属事業収入	655	619	▲ 36
受託事業収入	1,484	1,581	97
医療収入	73,019	74,774	1,755
受取利息・配当金収入	3	2	▲ 1
雑収入	1,481	1,485	4
借入金等収入	18,950	14,800	▲ 4,150
その他の収入	11,604	15,858	4,253
<b>収入の部合計</b>	<b>119,091</b>	<b>123,250</b>	<b>4,159</b>

#### ( 支出の部 )

区 分	H27実績	H28実績	対前年度
人件費支出	39,761	39,488	▲ 273
教育研究経費支出	37,223	38,184	961
(医療経費支出)	( 25,366)	( 26,098)	( 732)
管理経費支出	5,600	5,580	▲ 20
借入金利息支出	773	720	▲ 53
借入金返済支出	13,496	17,290	3,794
施設関係支出	1,316	1,530	214
設備関係支出	1,739	1,189	▲ 550
資産運用支出	0	0	0
予備費支出	0	0	0
その他の支出	14,288	16,650	2,362
<b>支出の部合計</b>	<b>114,196</b>	<b>120,630</b>	<b>6,434</b>

## 2-1. 事業活動収支計算書（対予算）

（単位：百万円）

区 分	平成28年度		
	予算 ①	決算 ②	差異 ②-①
学生生徒等納付金	6,566	6,499	▲67
手数料	322	314	▲8
寄付金	614	678	64
補助金	4,265	4,106	▲159
補助活動収入	57	56	▲1
付属事業収入	659	619	▲40
受託事業収入	1,345	1,581	236
医療収入	75,269	74,774	▲495
雑収入	1,241	1,477	236
収入計	90,338	90,104	▲234
人件費	40,969	39,722	▲1,247
教育研究経費	43,311	43,780	470
（医療経費）	(25,465)	(26,072)	607
管理経費	5,723	5,743	20
徴収不能引当金組入額等	74	101	0
支出計	90,076	89,346	▲730
教育活動収支差額	262	758	496
受取利息・配当金（収入）	3	2	▲1
借入金等利息（支出）	786	720	▲66
教育活動外収支差額	▲782	▲717	65
経常収支差額	▲520	40	561
その他の特別収入	1,194	1,616	422
その他の特別支出	383	1,108	726
特別収支差額	811	508	▲303
予備費	100	0	▲100
事業活動収支差額	191	548	358

## 2-2. 事業活動収支計算書（対前年）

（単位：百万円）

区 分	平成27年度	平成28年度	対前年度
学生生徒等納付金	6,447	6,499	52
手数料	250	314	64
寄付金	521	678	156
補助金	4,119	4,106	▲13
補助活動収入	50	56	6
付属事業収入	655	619	▲36
受託事業収入	1,484	1,581	97
医療収入	73,019	74,774	1,755
雑収入	1,478	1,477	▲1
収入計	88,024	90,104	2,080
人件費	40,078	39,722	▲356
教育研究経費	17,960	17,709	▲251
教) 人材派遣委託費	(480)	(678)	(2,227)
教) 管理業務委託費	(1,669)	(1,549)	
教) 減価償却額	(6,101)	(5,623)	(▲478)
医療経費	25,453	26,072	619
管理経費	5,709	5,743	34
管) 委託費	(0)	(0)	
管) 人材派遣委託費	(527)	(443)	(1,582)
管) 管理業務委託費	(1,093)	(1,139)	
管) 減価償却額	(253)	(210)	(▲43)
徴収不能引当金組入額等	90	101	0
支出計	89,290	89,346	56
教育活動収支差額	▲1,266	758	2,023
受取利息・配当金（収入）	3	2	▲1
借入金等利息（支出）	773	720	▲53
教育活動外収支差額	▲770	▲717	52
経常収支差額	▲2,035	40	2,076
その他の特別収入	559	1,616	1,057
その他の特別支出	1,212	1,108	▲104
特別収支差額	▲653	508	1,161
予備費	0	0	0
事業活動収支差額	▲2,688	548	3,236

### 3. 貸借対照表

平成29年3月31日

(単位：百万円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	101,522	106,568	(▲5,045)	固定負債	66,960	68,155	▲1,195
有形固定資産	100,081	105,119	(▲5,038)	長期借入金	49,229	50,601	▲1,372
施設関係	82,594	85,858	(▲3,264)	長期未払金	169	226	▲58
土地	21,383	22,126	(▲744)	退職給与引当金	17,562	17,328	234
建物	59,765	62,183	(▲2,419)				
構築物	1,447	1,549	(▲102)				
設備関係	14,731	17,620	(▲2,889)	流動負債	26,478	27,505	▲1,027
教育研究用機器備品	10,785	12,824	(▲2,039)	短期借入金	13,663	14,782	▲1,119
管理用機器備品	247	304	(▲57)	短期未払金	10,437	10,251	186
図書	3,670	4,450	(▲780)	前受金	1,474	1,426	49
車両	29	42	(▲13)	その他	903	1,046	▲143
建設仮勘定	2,756	1,640	1,115				
				<b>負債の部合計</b>	<b>93,437</b>	<b>95,659</b>	<b>▲2,222</b>
				<b>純資産の部</b>			
特定資産	58	58	0	科目	本年度末	前年度末	増減
第3号基本金引当特定資産	58	58	0	基本金	175,626	175,252	374
その他の固定資産	1,384	1,391	(▲7)	第1号基本金	169,590	169,216	374
				第2号基本金	0	0	0
流動資産	26,592	23,220	3,372	第3号基本金	58	58	0
現金預金	10,557	7,937	2,620	第4号基本金	5,979	5,979	0
未収入金	15,191	14,453	738	科目	本年度末	前年度末	増減
その他	844,394,815	830	14	繰越収支差額	▲140,949	▲141,124	174
				翌年度繰越収支差額	▲140,949	▲141,124	174
				<b>純資産の部合計</b>	<b>34,677</b>	<b>34,129</b>	<b>548</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>128,114</b>	<b>129,788</b>	<b>(▲1,674)</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>128,114</b>	<b>129,788</b>	<b>▲1,674</b>

<純資産構成比率（旧：自己資金構成比率）>

純資産  
-----  
負債＋純資産

区分	H24	H25	H26	H27	H28
純資産額	39,732	41,272	36,817	34,129	34,677
純資産構成比率	33.5%	33.4%	28.6%	26.3%	27.1%

## 4. 財産目録

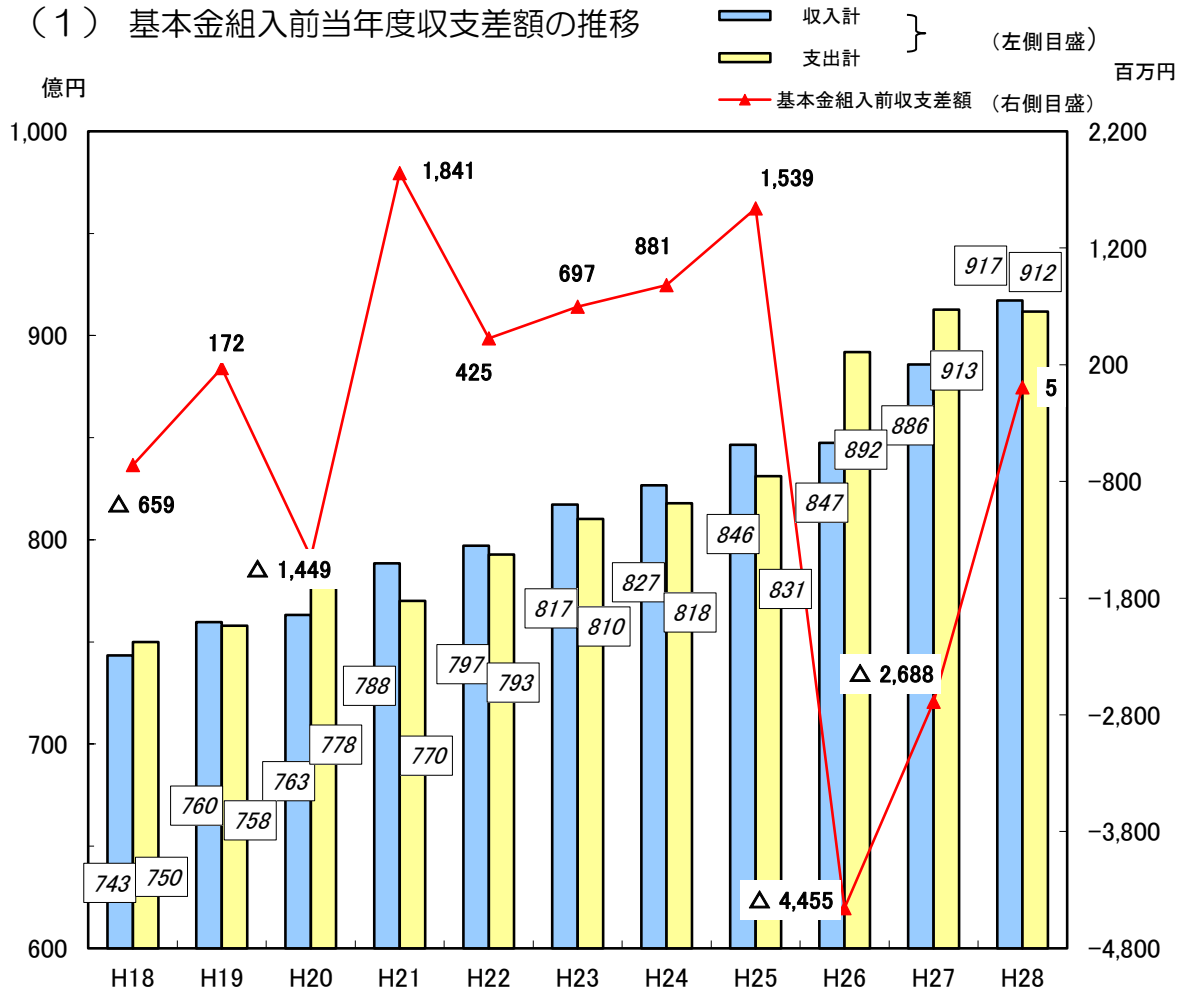
### 平成28年度 財産目録

I 資産総額	128,114,370,912円
内 基本財産	100,563,178,803円
運用財産	27,551,192,109円
II 負債総額	93,437,364,926円
III 正味財産	34,677,005,986円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	100,563,178,803 円
土地	926,142.02 m <sup>2</sup> 21,382,578,995 円
建物	284,204.50 m <sup>2</sup> 59,764,518,879 円
構築物	1,446,913,662 円
教育研究用機器備品	19,507 点 10,785,274,906 円
管理用機器備品	1,637 点 246,859,611 円
図書	413,886 冊 3,669,965,616 円
その他	3,267,067,134 円
2 運用財産	27,551,192,109 円
現金預金	10,556,759,552 円
その他	16,994,432,557 円
資 産 総 額	128,114,370,912 円
負債額	
1 固定負債	66,959,852,547 円
長期借入金	49,228,930,000 円
その他	17,730,922,547 円
2 流動負債	26,477,512,379 円
短期借入金	13,663,270,000 円
その他	12,814,242,379 円
負 債 総 額	93,437,364,926 円
正味財産（資産総額 - 負債総額）	34,677,005,986 円

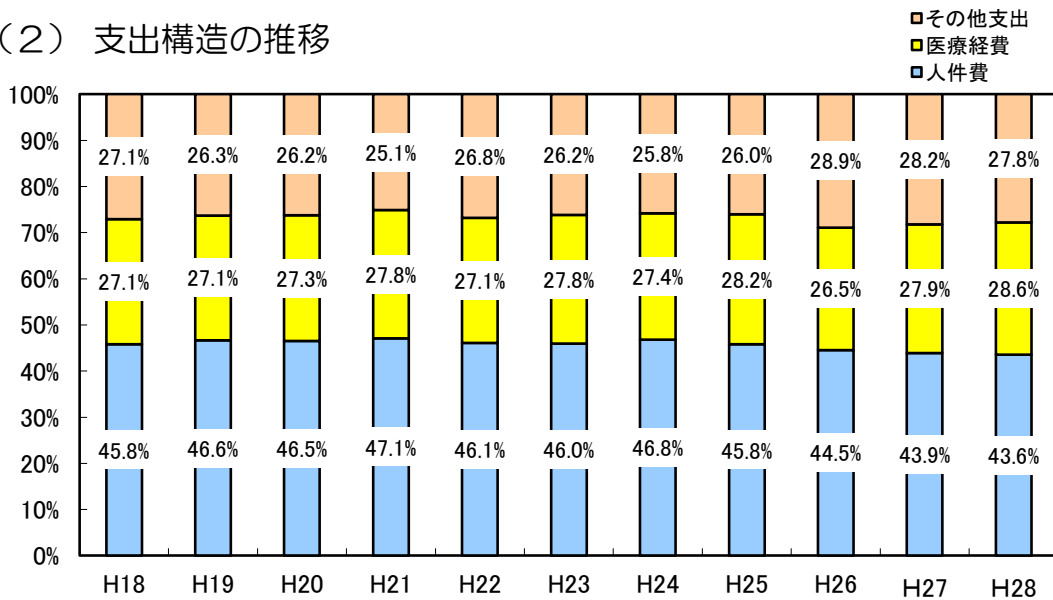
## 5. 財務状況の推移

### (1) 基本金組入前当年度収支差額の推移

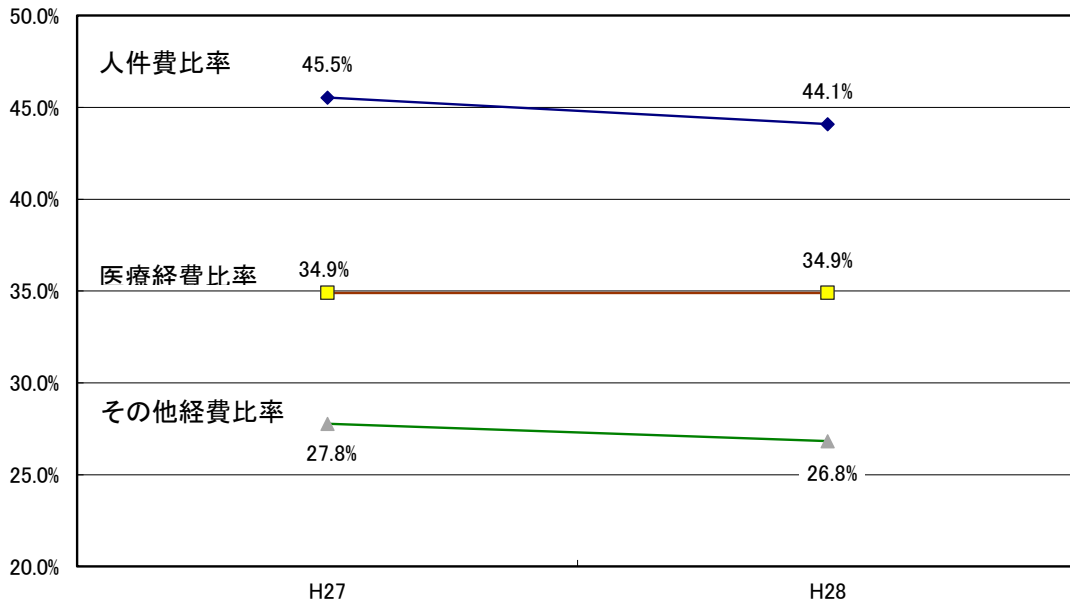


\* 帰属収支差額は基本金組入前当年度収支差額へ名称変更

### (2) 支出構造の推移



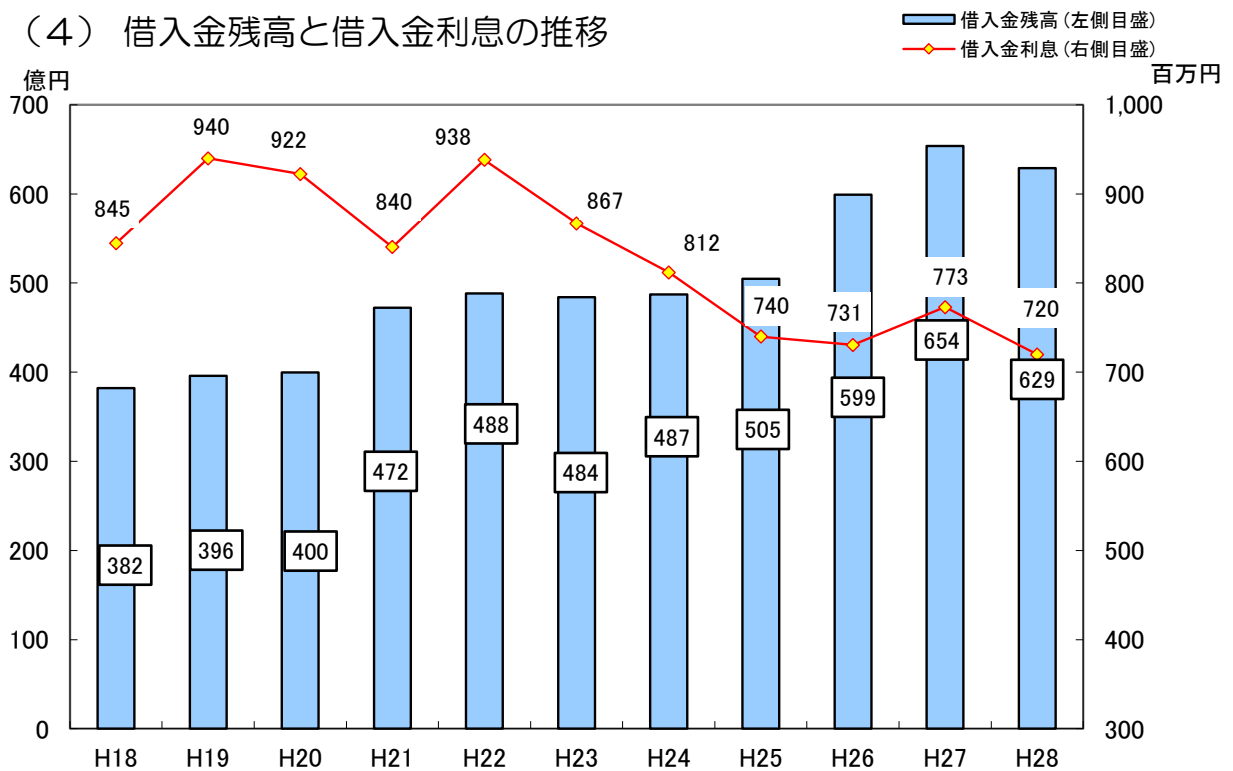
### (3) 主要経費比率の推移



人件費比率	=	人件費	÷	経常収入
医療経費比率	=	医療経費	÷	医療収入
その他経費比率	=	その他経費	÷	経常収入

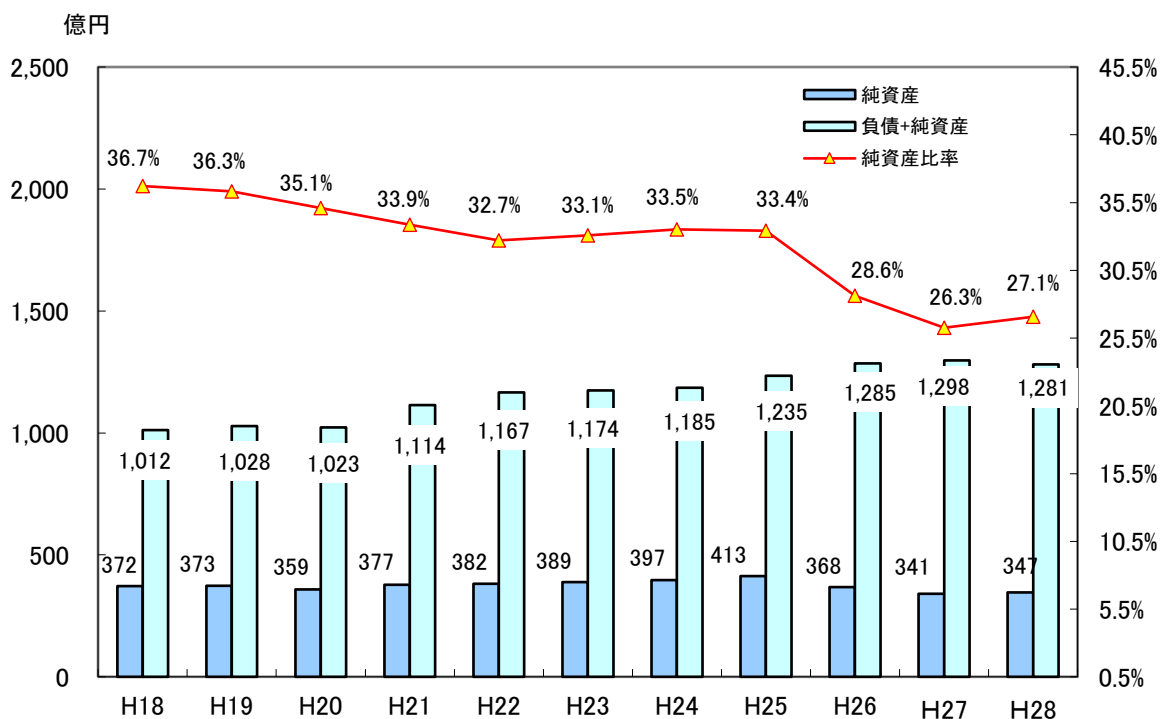
\* 学校法人会計基準改正に伴う新たな財務比率を使用したことにより、対前年度推移となった。

### (4) 借入金残高と借入金利息の推移





## (5) 純資産構成比率の推移



\* 自己資金構成比率は純資産構成比率へ名称変更

### 【財務状況の推移(まとめ)】

- 基本金組入前事業活動収支差額は、5.5億円の収入超過となり前年度対比では32.4億円の改善、予算対比でも3.6億円上回った。

収入面について、医療収入は附属病院をはじめ4病院すべてが前年度の収入を上回ったが、合計で747.7億円と予算対比では約5億円の未達となった。前年度対比では17.6億円の増加であり、増加率は2.4%となった。その他の収入については、千駄木寮の売却に伴う資産売却益を4億円計上できたことや、寄付金が予算対比で1.5億円多かったこともあり、事業活動収入合計は917億円と予算を2億円上回った。補助金収入は、約48.5億円と前年度より3億円増加できたが、予算対比では2.8億円下回った。

支出については、賞与支給額の削減とともに時間外勤務の削減に努め、人件費は予算対比で12.5億円の減少となった。医療経費は予算を約6億円上回ったが、主要経費比率では34.9%と前年度対比同率となった。また、資産処分として新丸子校舎の解体と武蔵境校舎に保管していた図書の除却で合計10.5億円を計上した。事業活動支出合計は912億円と予算対比1.7億円の減少となった。
- 資金面では、借入金残高は629億円と前年度より約25億円の減少となった。